

北陸新幹線敦賀開業に向けた 敦賀市行動計画

敦賀市

2019 年 3 月

2021 年 3 月一部追加

2022 年 7 月更新

2023 年 6 月更新

2024 年 6 月更新

目 次

第 1 章 行動計画の概要	・・・ 1
1-1 計画策定の目的	・・・ 2
1-2 計画の位置づけ	・・・ 2
1-3 計画のスケジュール	・・・ 3
第 2 章 北陸新幹線開業がもたらす効果	・・・ 4
2-1 北陸新幹線金沢開業の効果	・・・ 5
2-2 北陸新幹線敦賀開業により想定される環境の変化	・・・ 10
2-3 北陸新幹線敦賀開業による経済効果	・・・ 13
第 3 章 敦賀市の現況整理	・・・ 14
3-1 敦賀市の現況	・・・ 15
3-2 首都圏からみた敦賀市の評価	・・・ 23
3-3 上位計画および分野別計画の整理	・・・ 25
第 4 章 行動計画の基本方針と取組施策	・・・ 27
4-1 本計画の基本方針	・・・ 28
4-2 本計画の目標値	・・・ 29
4-3 取組施策	・・・ 30
第 5 章 行動計画の推進	・・・ 71
5-1 官民連携による推進体制	・・・ 72
5-2 計画の見直し・改善	・・・ 72

第 1 章

行動計画の概要

1-1 計画策定の目的

「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画」(以下、本計画)は、2023 年春(2024 年春に1年延期)に予定されている北陸新幹線敦賀開業に向けて行政・民間企業・関係団体などが一丸となって受け皿づくりに取り組み、開業効果を最大限に引き出すことができるよう、「いつ・誰が・何を・どのようにすべきか」といった具体的な行動方針を定めることを目的としています。

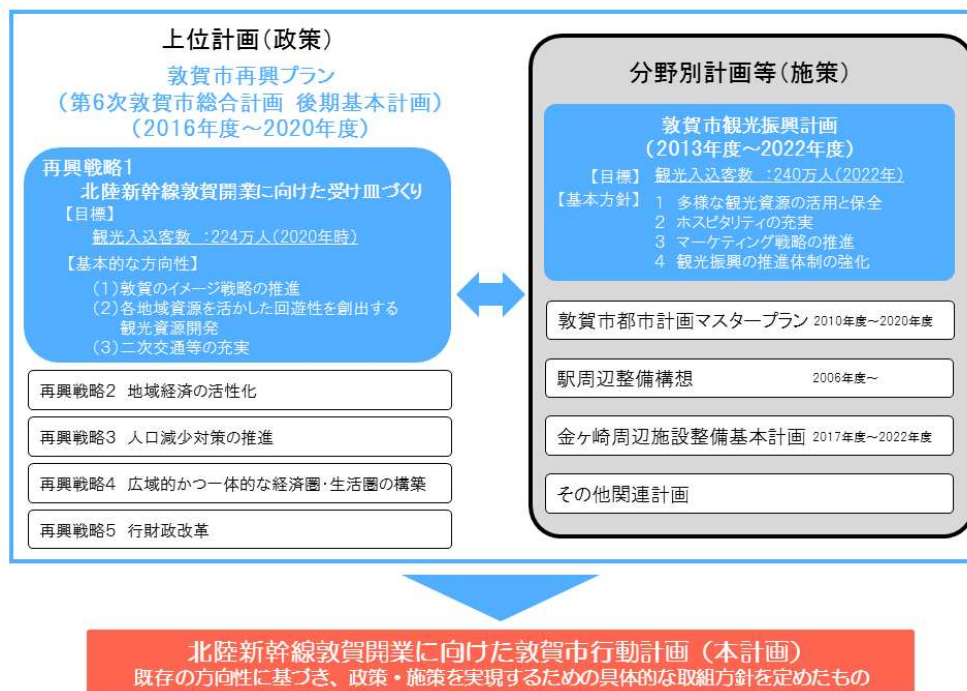
1-2 計画の位置づけ

北陸新幹線の敦賀開業は 2012 年に工事実施計画が決定されました。当初は、2025 年度の開業とされていましたが、現在では 2023 年春(2024 年春に1年延期)の開業が予定されています。開業年が 3 年前倒しとなったことにより、開業効果を早く得られるようになりました。一方で、受け皿づくりなど、開業準備の時間的猶予は少なくなっています。

本市では、すでに「敦賀市再興プラン(第 6 次敦賀市総合計画後期基本計画)」(以下、「敦賀市再興プラン」)や「敦賀市観光振興計画」などにおいて、北陸新幹線敦賀開業を見据えた大局的な政策・施策の方向性が定められています。来訪者を迎え入れる準備が急務となっている本市では、定められた方向性に基づき、施策を実現させていくための具体的な行動方針が求められています。

このことから本計画は、各分野に横断する施策を「北陸新幹線敦賀開業」の視点で取りまとめ、一体的に推進するための具体的な取組方針を定めたものとなります。

図表 北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画の位置づけ

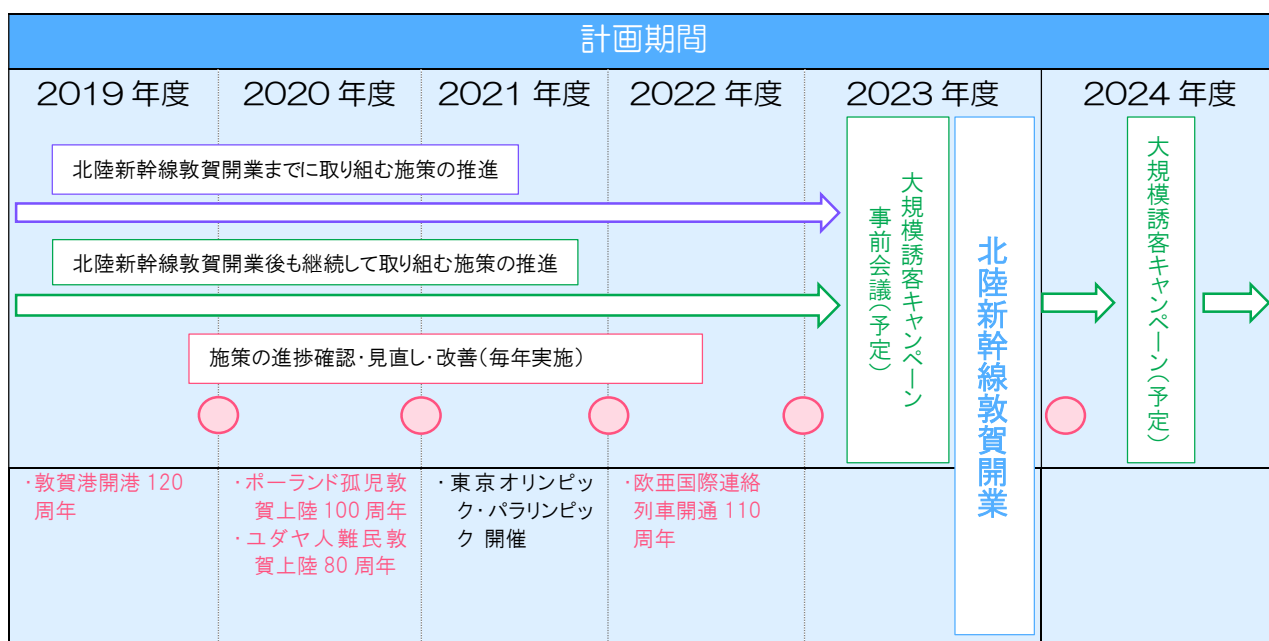


1-3 計画のスケジュール

新幹線の開業に向けては、開業後の継続した取組も重要であることから、本計画については、開業までに取り組む施策と、開業後も継続して取り組む施策の両方を位置づけることとし、計画期間を2019年度から2024年度の6年間とします。

また開業までに、本市では「敦賀港開港 120 周年」を始めとする本市の歴史にとって重要な記念の年を多く迎えます。これらの機会を開業までの節目として捉え、おもてなし意識の醸成や地域資源の磨き上げなど、来訪者を受け入れる準備を着実に推進する必要があります。

取組施策は、社会情勢の変化などを踏まえ、毎年度、取組状況の確認を行い、必要に応じて見直し、改善を行います。



※2025 年度に大阪万博開催

第 2 章

北陸新幹線開業がもたらす効果

③金沢市の北陸新幹線開業効果と課題

北陸新幹線敦賀開業までの終着駅である金沢市では、開業 2 年後の 2017 年に北陸新幹線開業による影響の検証が行われており、5 つの効果と課題を整理しています。

図表 金沢市の北陸新幹線開業効果と課題

	効果(○がプラス効果、●がマイナス効果)	今後の課題
交流人口の拡大	○金沢への入込客数が1千万人を超えるなど、交流人口の大幅な拡大 ○テレビや雑誌等で頻繁に取り上げられたことによる、首都圏以外からの観光客増加 ○大規模コンベンションの開催数増加 ○首都圏との時間的距離が短縮され、市民の首都圏に対する意識向上 ●繁忙期や週末の宿泊施設の予約が困難 ●宿泊施設の価格の高騰	・ 交流人口の拡大を定住人口につなげる ・ 都市のステータスや拠点性、ネットワークの質を高める
経済効果の拡大と雇用の確保	○交流人口の増加に伴う消費需要の拡大による、宿泊業や飲食業の業績向上、雇用増加、投資拡大 ○オフィスの空室減少 ○商業地の最高地価の上昇 ●人手不足の顕在化	・ 宿泊施設の整備に合わせ、まちの受入力を高める ・ 人口減少時代を見据えた将来にわたる人材確保 ・ 雇用の増加を定住人口の増加につなげる
歴史・伝統・文化など「金沢らしさ」の保全と継承	○金沢のまちの個性である、歴史・伝統・文化が国内外で評価されている ●伝統工芸の認知度が低い ●観光客の集中により「金沢らしさ」が失われつつある	・ 金沢のまちの魅力をより一層磨き高める ・ 伝統文化や工芸を活かしたビジネスの創出、工芸体験、若者への情報発信などを通じて金沢のファンを増やす ・ 特定の地域への集中を緩和するため、ほかの魅力あるエリアへの分散 ・ 「金沢らしさ」を明確にする取組の検討
外国人旅行者の増加	○2016 年の金沢市内での外国人宿泊者数は 39 万 6 千人 (金沢市観光戦略プラン 2016 の外国人宿泊者数の目標値は 40 万人)	・ 石川県を訪問している割合が2%であることや、認知度が低いことから、効果的なプロモーションや受入環境の充実、広域観光や中長期滞在の推進などさらなる誘客に向けた取組を推進 ・ 夜間観光の検討
市民生活と調和した持続可能な観光振興	○地元住民のまちづくり協定の締結などによる食べ歩きや交通混雑の問題改善 ○商店街振興組合のマナーアップの取組による近江町市場の買い物環境改善 ●ひがし茶屋街での食べ歩きやぼい捨て、交通混雑 ●近江町市場の混雑により、地元買物客の減少	・ 市民生活への影響を緩和し、観光に対する市民の理解を深める ・ 宿泊税の導入 ・ 民泊への対応 ※2018 年 6 月に「金沢市住宅宿泊事業の適正な運営の確保に関する条例」が施行され、金沢市独自のルールが定められている

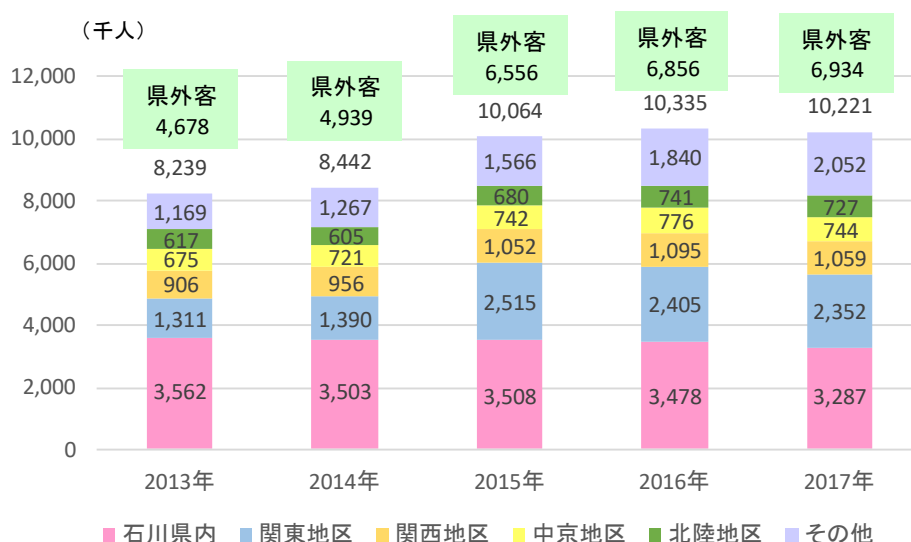
出典：金沢市,2017,「北陸新幹線開業による影響検証会議 報告書」

※参考

[1]金沢地域※への来訪者数

北陸新幹線開業前の金沢地域の観光入込客数は約 800 万人で推移していましたが、開業後の 2015 年に 1,000 万人を超え、2014 年に比べ約 19%増加しました。2015 年以降の観光入込客数は毎年約 1,000 万人で推移しています。特に 2015 年以降、関東方面からの旅行者数は 2014 年の約 2 倍となっています。

図表 金沢地域への来訪者数



関東地区：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県
 関西地区：大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県
 中京地区：愛知県、岐阜県、静岡県、三重県
 北陸地区：富山県、福井県

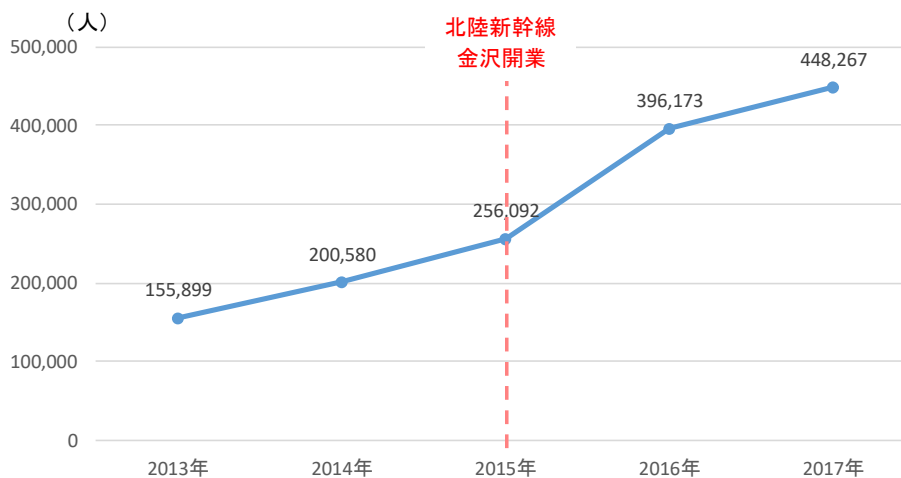
※金沢地域には金沢市、野々市市、白山市の一部(旧松任市と旧美川町)、津幡町、内灘町、かほく市が含まれる

出典：石川県、「統計からみた石川県の観光」(2013年～2017年)

[2]金沢市の外国人宿泊者数

外国人宿泊者数は、2013 年から 2015 年にかけて毎年約 5 万人ずつ増加していましたが、開業後の 2015 年から 2016 年にかけては約 15 万人と 50%以上の増加がみられました。

図表 金沢市の外国人宿泊者数



出典：金沢市、「金沢市内宿泊施設動向調査」(2013年～2017年)

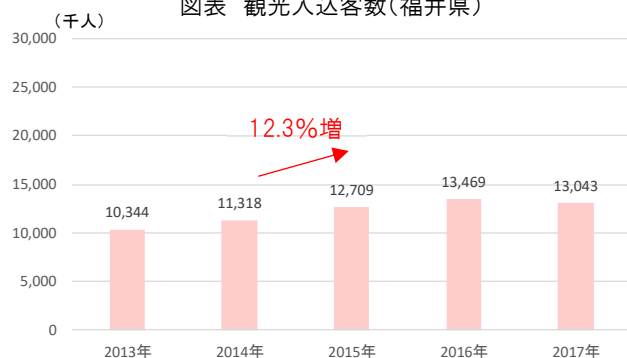
(3) 福井県の効果

①観光入込客数

北陸新幹線開業前の福井県の観光入込客数は2013年が約1,034万人、2014年が約1,132万人と推移していましたが、開業後の2015年の観光入込客数は約1,271万人と2014年に比べ約12.3%上昇しました。2015年以降は約1,300万人前後で推移しています。

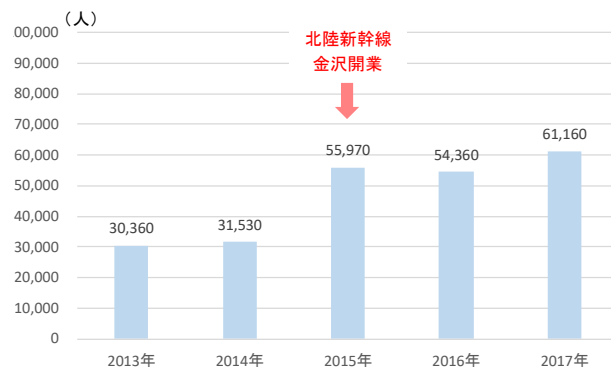
外国人宿泊者数は、開業前は約3万人を推移していましたが、開業後は5万人を超え、2017年には約6万1千人となっています。

図表 観光入込客数(福井県)



出典:福井県、「福井県観光客入込数(推計)」(2013年～2017年)

図表 外国人宿泊者数(福井県)



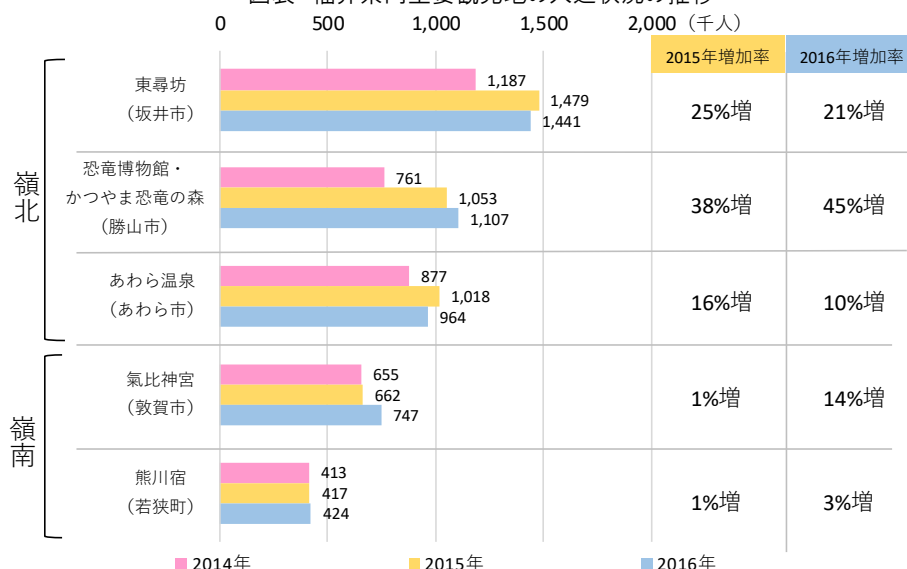
出典:観光庁、「宿泊旅行統計調査」(2013年～2017年)

②福井県内観光地の入込状況

嶺北の主要観光地入込客数の増加率を見ると、北陸新幹線金沢開業前年(2014年)と比較して開業初年(2015年)は、「東尋坊」は25%増、「恐竜博物館・かつやま恐竜の森」は38%増、「あわら温泉」は16%増と、大幅な増加がみられました。一方、嶺南の主要観光地では入込客数に大きな変動はみられませんでした。本市の観光施設である「氣比神宮」においては開業前年に比べ2016年に14%増加しています。

このことから、北陸新幹線金沢開業の効果は、嶺北地域を中心に大きな効果をもたらしている中で、嶺南地域へも少しずつ波及していると推測されます。

図表 福井県内主要観光地の入込状況の推移



※2015年、2016年の増加率は2014年を基準として比較した結果を表している
出典:福井県、「福井県観光客入込数(推計)」(2014年～2016年)

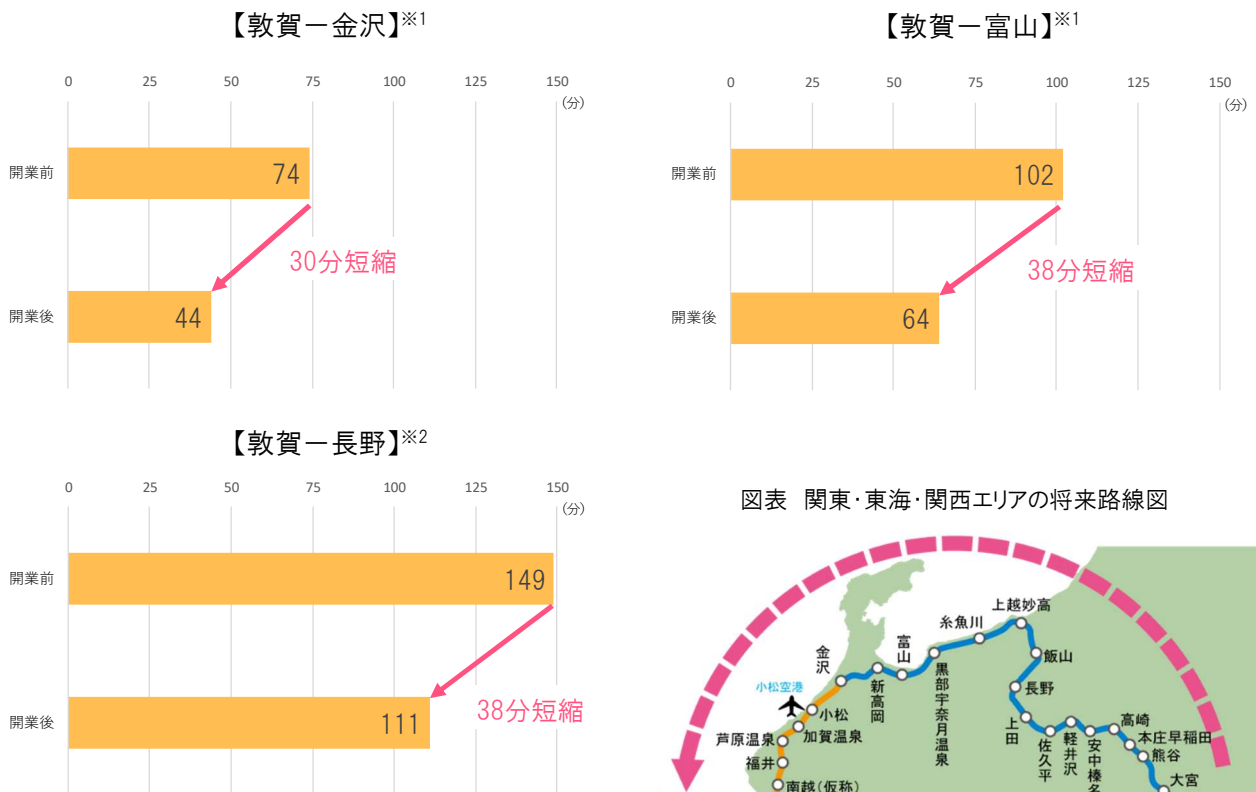
2-2 北陸新幹線敦賀開業により想定される環境の変化

(1) 主要都市からの所要時間の短縮

東京をはじめ、大宮、高崎などの関東地方や長野、糸魚川など信越地方から、乗り換えなしで敦賀市に来訪できるようになります。特に下表に示すとおり、北陸および信越の主要駅から敦賀駅までの所要時間が大幅に短縮されるため、ビジネスでの出張や日帰り小旅行などで来訪しやすくなります。

また 2017 年 3 月に、小浜・京都・京田辺を経由し新大阪に向かう若狭ルート(小浜・京都ルート)が決定されました。小浜市付近に設置される新駅と京都駅の間は 19 分で結ばれ、関西方面からの所要時間がさらに短縮されるだけでなく、新幹線を通して北海道や九州地方ともつながることになります。

図表 北陸新幹線敦賀開業前後の所要時間の比較



※1 参考資料:福井県「福井県高速交通開通アクション・プログラム」

※2 参考資料:福井県「みんなの力で早期開業 北陸新幹線」

図表 関東・東海・関西エリアの将来路線図



(2) 交通の拠点化による交流人口の増加

北陸新幹線の当面の終着駅・始発駅となる敦賀駅は、首都圏から京阪神・北近畿へ、また京阪神方面から信越・北関東へ向かう人々が福井方面や小浜方面へ乗り換えを行う「交通の要衝」としての機能を持つことになります。また、敦賀駅東側の駅前広場には、広域周遊バスのバスターミナル、北陸自動車道へのアクセス道路が整備され、各都市圏や近隣市町への自家用車やバスによるアクセス性が向上します。

京阪神方面、東海方面、信越・北関東方面のどの方面にもアクセスしやすくなることから、効率的な人、物の流れを目的とした、嶺南地域への企業進出が期待できます。また、近年太平洋側で懸念されている南海トラフ地震などの巨大災害に対するリスク軽減を目的とした進出も想定されます。

さらに、本市は三方が山に囲まれた自然豊かな環境であり、また北部には天然の良港である敦賀港があります。都会を離れ豊かな自然環境の中で暮らしたいと考える子育て世代や、ゆとりのあるシニア層に向けて、各都市圏からの利便性の高さを PR することで、移住・定住者増加の可能性が広がります。

図表 北陸新幹線敦賀駅 駅舎イメージ(東側)



図表 北陸新幹線敦賀駅 駅舎イメージ(西側)



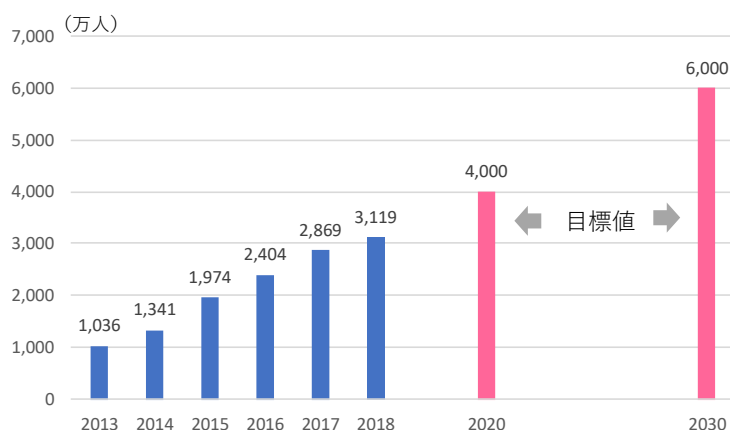
(3) 外国人旅行者の増加

日本国内を訪れる外国人旅行者は年々増加傾向にあり、2018 年に 3,000 万人を突破しました。観光庁では 2020 年には 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人の来訪を目標値としており、我が国全体で外国人旅行者の受入体制を整える方針としています。そのような中で 2020 年に東京オリンピック・パラリンピックの開催、2025 年に大阪万博の開催など、多くの外国人旅行者が日本を訪れる機会が続きます。

北陸新幹線金沢開業後、北陸方面を訪れる外国人旅行者は増加しています。外国人宿泊者数を開業前後で比較すると、富山県で 2 倍、石川県で 2.2 倍に増加しています。引き続き、外国人旅行者の増加が見込まれるため、北陸新幹線の終着駅である敦賀市を訪れる外国人旅行者も増加すると考えられます。

また敦賀市においても、2019 年に敦賀港開港 120 周年、2020 年にポーランド孤児上陸 100 周年、2020 年(～2021 年)にユダヤ人難民上陸 80 周年を迎えるなど、北陸新幹線敦賀開業までに国際的に重要な記念の年を迎えることに加え、杉原千畝ルートや北前船など他地域との連携、クルーズ客船の寄港など、外国人旅行者の受入機会が増加すると考えられます。

図表 日本を訪れる外国人旅行者数

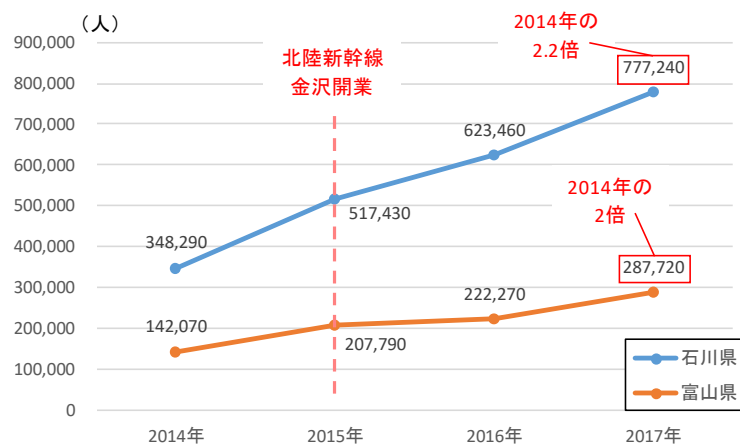


出典：日本政府観光局、「国籍別/目的別訪日外客数(確定値)」(2013～2018)
観光庁、2016、「明日の日本を支える観光ビジョン」(2020、2030 目標値)

図表 敦賀市および日本国内の主な国際的事業
(敦賀市に関連あるイベントは赤色)

2019 年	日本・ポーランド国交樹立 100 周年 敦賀港開港 120 周年
2020 年	ポーランド孤児敦賀上陸 100 周年 ユダヤ人難民敦賀上陸 80 周年
2021 年	東京オリンピック・パラリンピック
2022 年	
2023 年	欧亜国際連絡列車開通 110 周年
2024 年	北陸新幹線敦賀開業
2025 年	大阪万博

図表 石川県・富山県の外国人宿泊者数



出典：観光庁、「宿泊旅行統計調査」(2014～2017)

2-3 北陸新幹線敦賀開業による経済効果

北陸経済研究所の試算によると、北陸新幹線敦賀開業による北陸地域での経済波及効果※は約 800 億円と試算されています。特に福井県内の経済波及効果は、年間約 210 億円、福井県内の雇用創出効果として、年間約 1,900 人分と想定されています。

また、2020 年 2 月の日本政策投資銀行の事前予測によると、北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果は約 309 億円と試算されています。

その内訳は、直接効果としてビジネス分と観光分を合計して約 191 億円、間接一次効果と間接二次効果の合計で約 119 億円と想定されています。

- ◆経済波及効果(福井県内) **約 309 億円**
- ①直接効果 **約 191 億円**
(ビジネス:約 91 億円、観光:約 100 億円)
- ②間接効果 **約 119 億円**
(一次間接効果:約 71 億円、二次間接効果:約 48 億円)

※直接効果:福井県への首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)及び関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県)からの増加入込客が福井県内の経済にもたらす経済効果

※間接一次効果:直接効果にかかる需要により県内生産が誘発されることによる効果

※間接二次効果:雇用者所得の増加が消費を経由して県内生産が誘発されることによる効果

経済波及効果	=	直接効果	+	間接一次効果	+	間接二次効果
--------	---	------	---	--------	---	--------

図表 2(3)-2 経済波及効果と波及効果倍率【日本人：首都圏+関西圏】

直接効果	間接一次効果	間接二次効果	経済波及効果	波及効果倍率
約 191 億円	約 71 億円	約 48 億円	約 309 億円	約 1.62 倍

出典:㈱日本政策投資銀行,2020,「北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果」

第 3 章

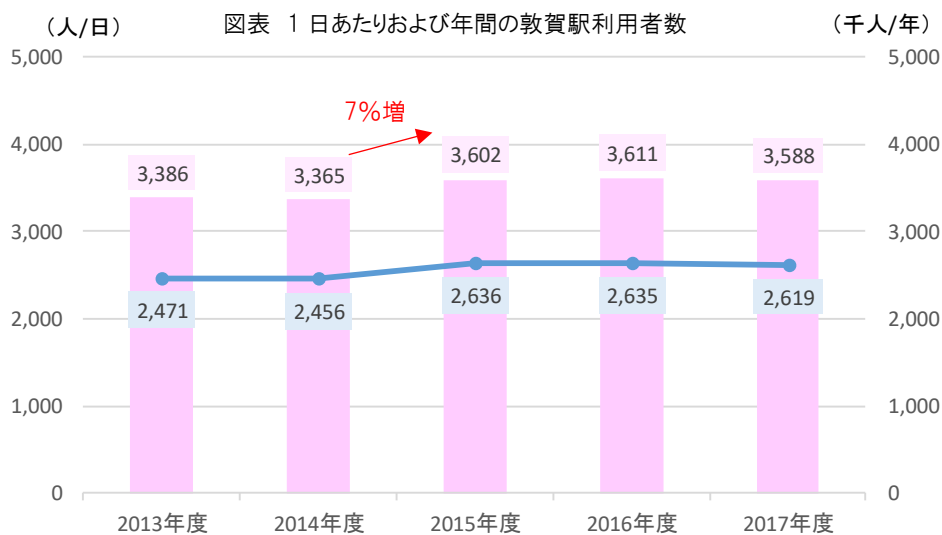
敦賀市の現況整理

3-1 敦賀市の現況

(1) 敦賀駅利用者数

敦賀駅の1日あたりの利用者数は2013年、2014年は約3,300人で推移していましたが、2015年以降は3,600人前後で推移しており、2015年の利用者数は2014年から約7%増加したといえます。年間利用者数についても、2013年、2014年は約240万人で推移していましたが、2015年以降は260万人を超えています。

1日あたりの利用者数について北陸新幹線金沢開業前後の動きをみると、富山駅では2015年度、2016年度ともに27%増加しています。金沢駅では2015年度は11%、2016年度は61%と大幅に増加しています。一方、敦賀駅では2015年度、2016年度ともに7%増と横ばいで推移していることから、敦賀市において北陸新幹線金沢開業の効果はあるものの、大きな影響を及ぼしていないことが考えられます。

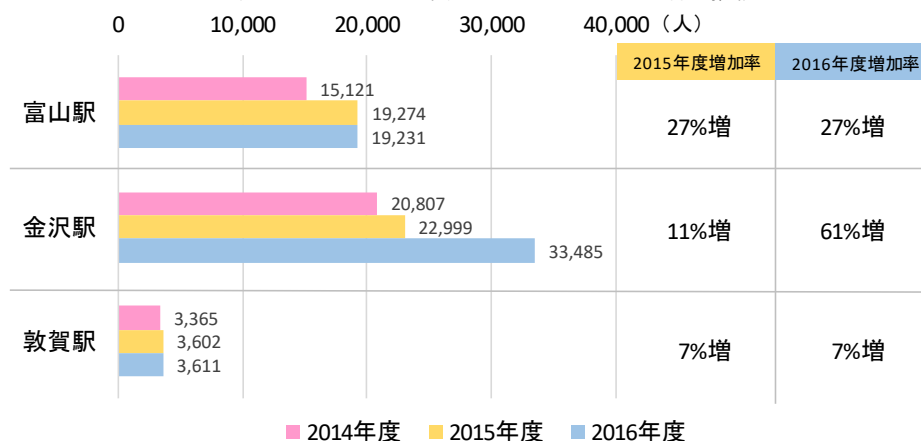


※棒グラフ(左軸)が1日あたりの利用者数、折れ線グラフ(右軸)が年間利用者数を示す
 ※2017年度の1日あたりの利用者数は(2017年度の年間利用者数÷365÷2)で算出

出典：福井県、「福井県統計年鑑」(2013～2016)

敦賀市が西日本旅客鉄道(株)に独自に行なった聞き取り調査(2017年度の年間利用者数)

図表 2014～2016年度の1日あたりの利用者の推移



※2015年、2016年の増加率は2014年を基準として比較した結果を表している

※2015年度の新潟駅の数値は、並行在来線(IRいしかわ鉄道)の利用者数が含まれていない

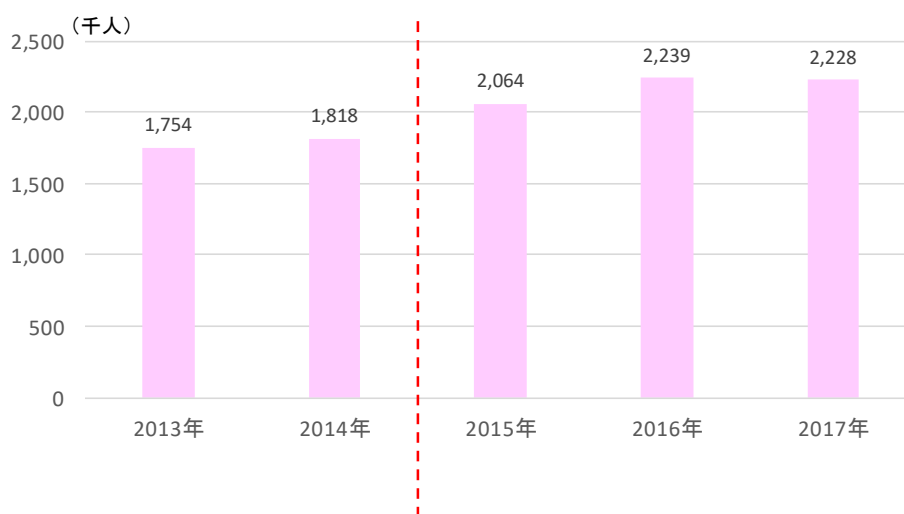
出典：福井県、「福井県統計年鑑」
 石川県、「石川県統計書」
 富山県、「富山県統計年鑑」

(2) 観光入込客数

観光入込客数は 2015 年に 200 万人を超え、2017 年には 222 万 8 千人となっています。2015 年に新たな観光施設として敦賀赤レンガ倉庫が開業したことやライトアップイベント「敦賀港イルミネーション『ミライエ』」が 2015 年から始まったことが要因として考えられます。

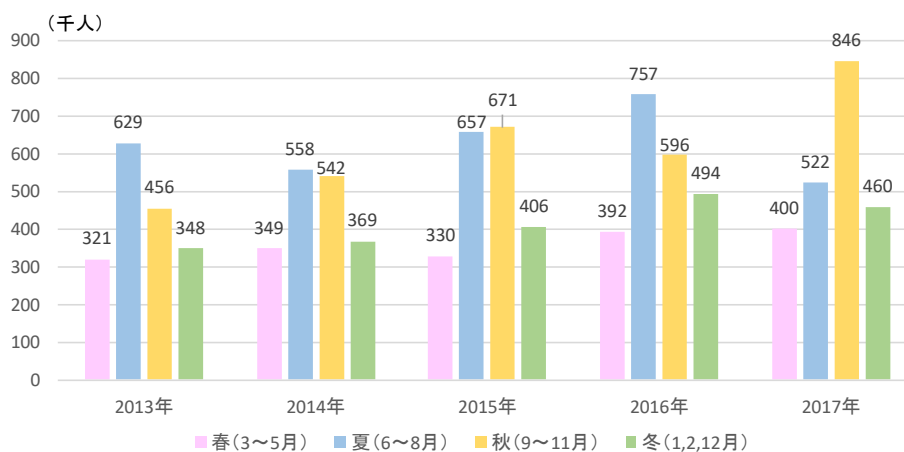
また、季節別に観光入込客数をみると、夏と秋の観光入込客数が多くっており、海水浴などのアクティビティや、敦賀まつりを始めとするイベントを目的とした来訪者が多いと考えられます。

図表 敦賀市の観光入込客数



出典：福井県、「福井県観光客入込数(推計)」(2013～2017)

図表 敦賀市の季節別観光入込客数



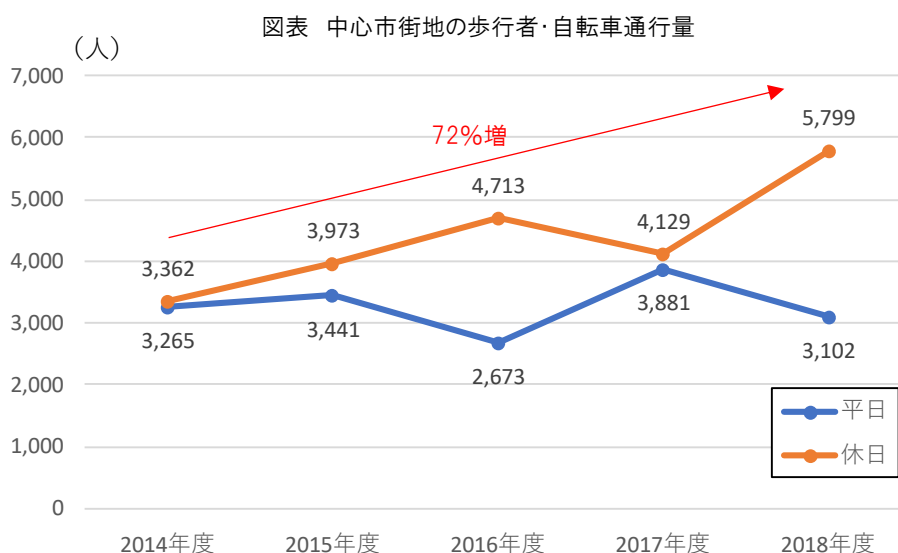
出典：福井県、「福井県観光客入込数(推計)」(2013～2017)

(3) 中心市街地の活性化

①中心市街地の歩行者・自転車通行量

平日の歩行者・自転車通行量は、約 3,000 人とほぼ横ばいで推移しています。また、休日の歩行者・自転車通行量は平日を大きく上回っており、2015 年までは 3,000 人台で推移していましたが、2016 年度に 4,000 人を超え、2018 年には 5,799 人となり、2014 年度の約 72%増となっています。

中心市街地の歩行者・自転車通行量が増加傾向にあるのは、2017 年 3 月のキッズパークのオープンや、神楽商店街を始めとする各商店街において店舗のリノベーションやイベント開催など、中心市街地を訪れる機会が多く創出されていることが要因として考えられます。



※本グラフでは、5 地点(白銀交差点(駅前商店街)、神宮前交差点、神楽商店街、博物館通り
付近交差点、金ヶ崎緑地前)での調査結果の合計数を示している。

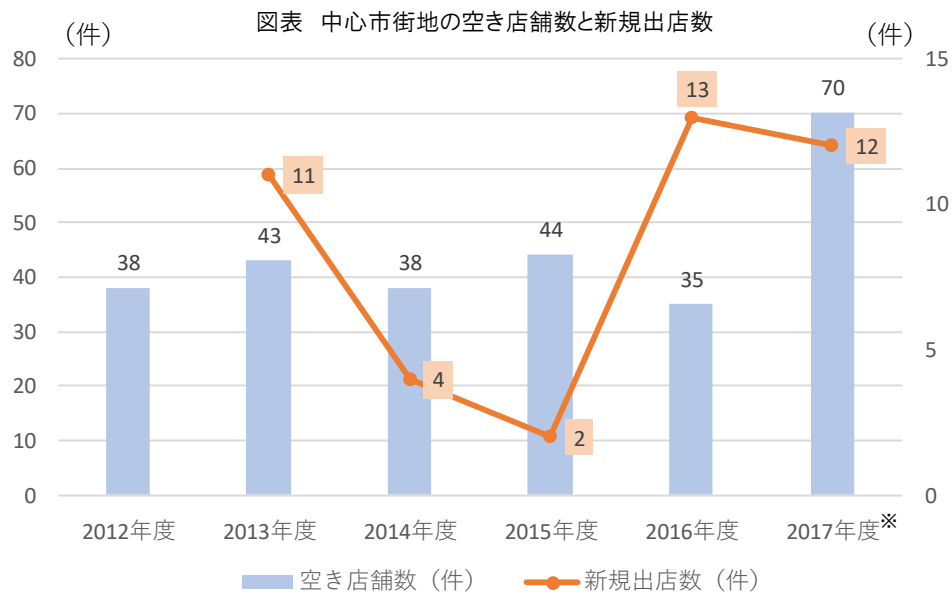
※2016 年度の平日のみ、4 地点での調査結果の合計数を示している。

出典：敦賀市による中心市街地の歩行者・自転車通行量調査の結果をもとに作成

②中心市街地の空き店舗数と新規出店数

中心市街地の空き店舗数は、2017 年度は 70 件となっています。また、調査方法が変わる以前の 5 年間(2012 年度～2016 年度)の空き店舗数の減少率を見ると、7.9%となっており、5 年間で 3 件の空き店舗の減少がみられます。一方、中心市街地の新規出店数をみると、5 年間で年間平均 8.4 件の新規出店がみられます。

中心市街地の歩行者・自転車通行量が増加傾向にあることもあり、今後、北陸新幹線敦賀開業に向けて、中心市街地に新規出店を検討する事業者が増えることが予想されます。引き続き、中心市街地の空き店舗数を減らし、新規出店数を増やしていくためには、事業者向けに空き店舗情報の提供や所有者と出店希望者とのマッチングを効果的に行えるような取り組みが重要です。



※空き店舗調査は 2017 年度より調査方法が変更されている
※新規出店数の調査は 2013 年度以降実施

出典：港都つるが株式会社による空き店舗数調査および
新規出店数調査をもとに作成

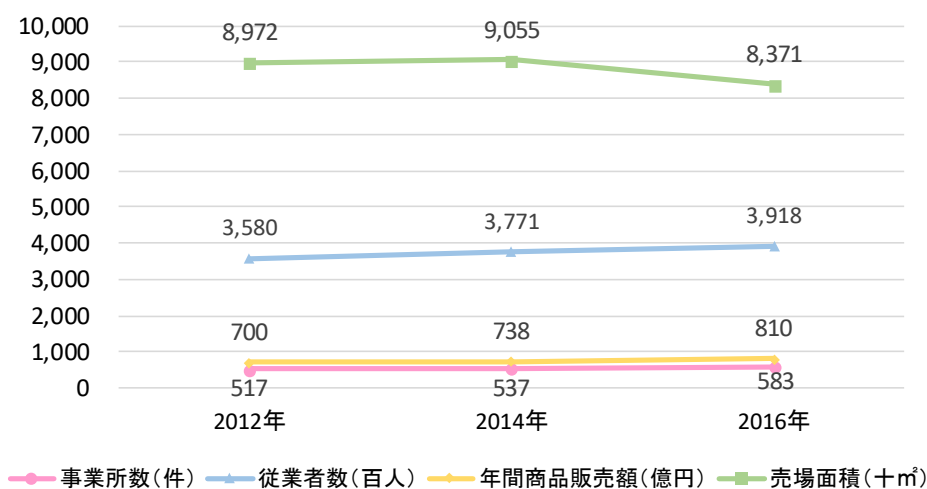
(4) 敦賀市の商業

敦賀市の小売業について、2012 年から 2016 年の推移をみると、事業所数、従業者数、年間商品販売額は増加傾向にありますが、売り場面積は縮小傾向となっています。

また宿泊・飲食サービス事業について 2012 年から 2016 年の事業収入の推移をみると、飲食サービス事業は 26% 増となっていますが、宿泊事業は横ばいとなっています。

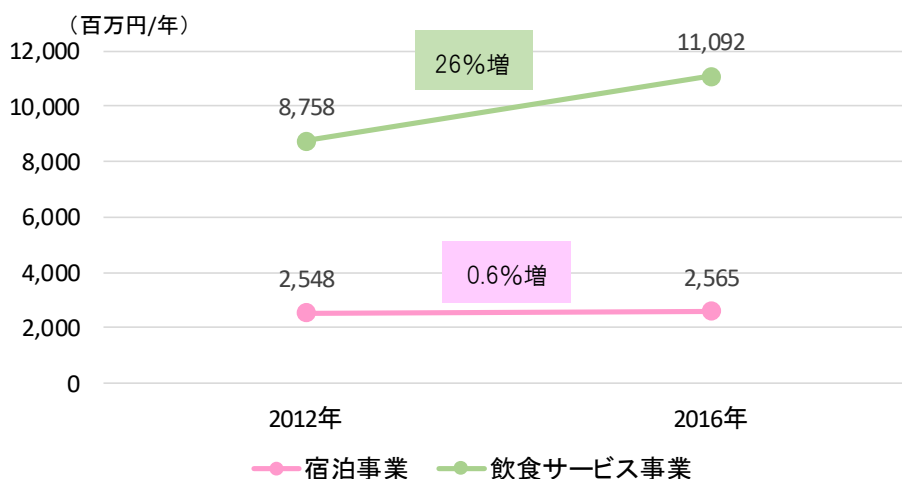
北陸新幹線敦賀開業を契機に多くの来訪者が訪れると想定されることから、小売業や宿泊・飲食サービス事業において、事業所数や事業収入増加のための施策が必要だと考えられます。

図表 小売業の推移



参考：総務省統計局、経済産業省大臣官房調査統計グループ、
「経済センサス-活動調査 事業所に関する集計産業別集計」

図表 宿泊・飲食サービス業の売上の推移



参考：総務省統計局、経済産業省大臣官房調査統計グループ、
「経済センサス-活動調査 事業所に関する集計産業別集計(サービスB)」

(5) 市街地整備の状況

新たに建設される新幹線駅舎のデザインコンセプトは、平成 30 年 2 月に「空にうかぶ～自然に囲まれ、港を望む駅～」に決定し、整備が進められています。

駅西側は、市内観光の出発点として、立体駐車場の整備や官民連携による宿泊・飲食・公園・公共機能を持つ、来訪者や市民の日常利用によるにぎわい拠点の整備を進めています。一方駅東側については、広域観光の出発点として、新幹線駅前広場の整備や、新幹線駅前広場と国道 8 号バイパスを結ぶアクセス道路の整備を進めています。

また敦賀市は、国土交通省の「景観まちづくり刷新支援事業」における全国 10 地区のモデル地区に指定され、「観光拠点『人道の港』の整備とまちなみ刷新」をテーマに、2017 年度より3年間、国から集中的な支援を受け、「人道の港」交流施設整備事業、レンタサイクルの拠点整備、本町通り(国道 8 号)道路空間整備など 7 つの事業により中心市街地の整備を進めています。

図表 敦賀駅西地区土地活用事業の整備イメージ(今後の協議により随時修正)



図表 北陸新幹線敦賀駅 駅舎イメージ(東側)



図表 北陸新幹線敦賀駅 駅舎イメージ(西側)



図表 景観まちづくり刷新支援事業一覧

事業名	事業概要	整備イメージ
①「人道の港」交流施設整備事業	・金ヶ崎周辺に実在した税関等の建築物の復元によるノスタルジー空間の創出	
②レンタサイクル拠点整備事業	・敦賀駅からの二次アクセス向上 ・市内 9 か所のステーション設置	
③観光案内看板整備事業	・市内 16 か所に観光案内看板を新設または改修(多言語対応)	
④景観形成推進地区外観整備事業	・アーケード及び商店街沿いの店舗等の外観改修による景観形成事業	
⑤本町通り道路空間整備事業	・国の直轄工事(4 車線→2 車線)に伴い創出される空間を魅力的な歩行空間へ整備	
⑥本町通り道路空間ストリートファニチャー整備事業	・デザインベンチ、街路灯等の設置	
⑦敦賀駅前立体駐車場整備事業	・オルパークに隣接する立体駐車場の整備	

(6) 敦賀市の現況 総括

(1)～(5)の結果をもとに、敦賀市の現況について分析した結果、以下のような傾向がみられました。引き続き、効果の拡大に向けて着実に取り組みを続けていく必要があります。

①敦賀市中心部への来訪者は増加傾向

北陸新幹線金沢開業後の駅利用者数を見ると金沢駅で約 1.6 倍、富山駅で約 1.3 倍と大きく伸びています。本市では、「敦賀赤レンガ倉庫」などの新たな観光施設の開業、「敦賀港イルミネーション『ミライエ』」などの新規イベントの開催、商店街における店舗改装などによる個店の魅力向上などの取り組みの成果により、敦賀駅利用者数、観光入込客数、歩行者・自転車通行量は概ね増加傾向にあります。しかし、今後敦賀開業に向けて、金沢駅などと同等の伸びを目指し、効果的な PR や魅力的な観光コンテンツづくりなど更に取り組みを強化する必要があります。

②まちなか整備は進められている

「景観まちづくり刷新支援事業」に採択されたことで、金ヶ崎周辺地区における新ムゼウムの移転拡充、国道 8 号の 2 車線化に伴う道路空間の整備、レンタサイクル拠点の整備、観光案内看板の整備など、中心市街地におけるハード整備が加速して進められています。

また敦賀駅前においても、駅西側で立体駐車場や敦賀駅西地区土地活用事業、駅東側で広域観光の出発点となる新幹線駅前広場の整備やアクセス道路の整備など、嶺南地域の玄関口としての整備が順次進められています。

北陸新幹線敦賀開業後は、より多くの方の来訪が想定されます。今後は本市での滞在時間を増やすことに加え、嶺南の玄関口として、近隣市町と連携した魅力的な観光コンテンツを造成するなど嶺南地域全体での取り組みを推進する必要があります。また、意欲ある事業者が中心市街地で活躍できる場を設けることができるよう、商店街の空き店舗をホームページ上で紹介するなど出店希望者と効果的にマッチングできる取り組みを強化していくことも重要です。

引き続き、敦賀市中心部のハード整備に合わせたソフト施策などを推進することで、多くの来訪者が快適にまちなかを回遊し、敦賀市をはじめとする嶺南地域を十分に楽しむことができる環境を整備することが必要です。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、国内旅行・インバウンドとともに旅行者が減少し、新しい生活様式の実践、行動の自粛、働き方や旅行形態の変化が起きていることを踏まえた対応が必要です。

3-2 首都圏からみた敦賀市の評価

(1) 敦賀市の認知度とイメージ

①概要

2017 年度に実施した首都圏ライフスタイル調査の結果を用いて、敦賀市の認知度とイメージに関する分析を行いました。

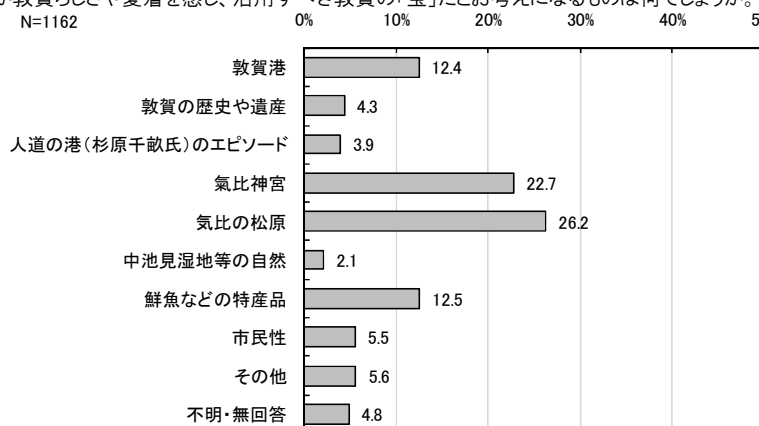
調査方法	WEB アンケート調査（JUSTSYSTEMS 社の Fastask を利用）
対象者／抽出方法	首都圏（1 都 7 県、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・群馬県・栃木県・茨城県・山梨県）在住の 20 代から 60 代の一般男女を Fastask モニター会員から無作為抽出
回収数	330 サンプル（配信数 1,779 名）

②調査結果

- ・ 敦賀市の認知度は「知っている」が 64.8%で、その内訳を性別で見ると、男性は 76.2%、女性は 46.0%と性別の差が大きく、女性にはあまり知られていないといえます。
- ・ 観光での訪問有無は、「ない」が 85.0%です。訪問したことがある回答者に訪れた観光地、観光施設を尋ねたところ、「覚えていない、不明」が最も多く、観光地、観光施設では「金ヶ崎城跡」「敦賀港」「氣比神宮」「水島」に複数の回答がみられました。
- ・ 敦賀市のイメージに関する自由記述回答をイメージが明確と不明確なものに分類しました。「イメージがない」が最も多く 37.1%であり、「あいまいなイメージ」「間違ったイメージ」を合わせると 約 4 割が「敦賀市のイメージ」がつかめていないといえます。
- ・ イメージが明確な人の回答では「原発」が 24.1%と最も高く、「海・港」、「食」と続きます。敦賀市民が敦賀らしさや愛着を感じ、活用すべき「宝」だと感じている「氣比の松原」や「氣比神宮」のイメージが首都圏では浸透していないといえます。

※参考 第6次敦賀市総合計画策定にかかる市民アンケート調査

あなたが敦賀らしさや愛着を感じ、活用すべき敦賀の「宝」だと思えるものは何でしょうか。（○は一つ）
N=1162



（引用元：敦賀市、2016、『第6次敦賀市総合計画策定にかかる市民アンケート調査 結果報告書』p23）

(2) 首都圏メディア関係者による意見・評価

①概要

2017 年に、敦賀市の観光コンテンツをメディア関係者に知ってもらうため、首都圏のメディア関係者を招へいし、市内 11 箇所(地区)の観光施設などを巡るツアーを実施しました。

意見交換会やアンケート調査では、人道の港や異国情緒など、敦賀市独自のストーリーや金ヶ崎周辺のレトロ性は強みであるといった意見がみられました。一方、観光客の受入体制、突出した観光資源による差別化、ターゲット別の内容強化、PR の切り口などが課題として挙げられました。

実施日	2017 年 11 月 8 日(水)～9 日(木) 1泊2日
招へいメディア	首都圏メディア 6 名 (新聞&WEB 版/WEB マガジン 3 社/WEB ニュース/タ刊紙)
内容	市内観光施設など 11 箇所(地区)を訪問(地元ガイド付) 北陸新幹線「敦賀開業」セミナー・意見交換会および個別アンケートを実施

②意見交換会・事後アンケートの結果

〔意見交換会〕(主な意見)

- ・ ストーリー性が重要(杉原千畝、人道の港など、ストーリー性が感じられる)「誰を伝えたいのか」核となる人がいると良い。
- ・ 敦賀＝「何か」というような、インパクトのある「何か」が必要
- ・ ロシアとの関係が面白い(ヨーロッパ軒のロシア語看板など)。ロシアの異国情緒を感じられる街にするとおもしろいのでは。
- ・ レトロモダンな雰囲気はフォトジェニックになる。
- ・ 全体的に言えるが刺さるものが欲しい。
- ・ 敦賀でしか体験できないもの(こと)があれば、と思う。

〔事後アンケート〕(主な意見)

- ・ まだ外からの観光客受入体制が十分に整ってはいない。街全体がこれから誘致に向けて努力しているという段階だと思った。杉原千畝さん関係の施設を充実させることで、観光の柱の一つは可能だと思う。
- ・ 誰に向けて何を発信していく、というのがまだ定まっていなかったように感じた。年齢・性別ごとに何ができる、ということを整理してから、各コンテンツの内容・ストーリーを整備することが必要。
- ・ 期待以上の観光資源があると感じた、しかし、同時にもったいないとも思う。突出した何かがあれば差別化がしやすい。どこかで見た感じ、の小粒版、が現在の印象。
- ・ PR の切り口をもっとクリアにはっきりさせることが必要。若い人が若い人を呼ぶ努力が必要、街が動いているイメージを植え付ける。
- ・ 最終的には人。人は人を通じてその土地を好きになる。どんな観光資源も、どんな人が係るかによって違うものにもなる。

3-3 上位計画および分野別計画の整理

(1) 第7次敦賀市総合計画

「第7次敦賀市総合計画」では、人口減少対策を政策目標とする地方版総合戦略と一本化し、移住・帰住の視点を加えるとともに、人口減少対策に有効と考えられる産業政策や教育政策を重視しつつ、全政策分野における取組みを体系化しています。また、基本理念において、新幹線開業を契機としたまちづくりの方向性を示しています。

図表 第7次敦賀市総合計画 基本構想

	概	要	対応する SDGs
基本理念	「次世代につなげる 夢と希望に満ちた 住みたくなるまち敦賀」		
	北陸新幹線敦賀開業を交通の要衝としてさらなる発展の機会として捉え、市民とともに、敦賀に集う誰もが夢と希望を感じ、住みたくなるまち敦賀を目指す		
戦 略	【戦略1 健康福祉分野】 世代をつなぎ暮らしやすい環境づくり		1 貧困をなくそう 2 健康と福祉 3 持続可能な開発のための健康
	- 安心して子育てができる環境を整備・発信 - 障がい福祉や地域包括ケアシステムを推進 - 健康寿命の延伸等を推進することで、一生涯安心福祉や地域医療を充実		
	【戦略2 教育文化分野】 次世代につなげる人づくり		4 質の高い教育をみんなに
	- 全国に誇り得る、特色ある教育環境を整備 - 人道の港のエピソードや地域の特性を生かした「学び」を充実することで、敦賀を次世代につなげ、支える人づくりに取組む		
	【戦略3 産業観光分野】 地域と人をつなぐ厚みのある産業づくり		7 持続可能なエネルギー 8 持続可能な産業 9 持続可能な産業と雇用 12 持続可能な消費と生産 外
	- 強みを活かした地場産業の強化と「つながり」と「多様性」を重視した産業政策を展開 - 新たな生活様式への対応等に向け、主力産業である商業の稼ぐ産業化を推進 - 地域資源を活かした受け皿づくりを推進し、広域的な観光圏の形成に取組む		
戦 略	【戦略4 都市基盤分野】 未来につなげる都市づくり		6 安全な水とトイレを世界中に 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に具体的な対策を 外
	- 北陸新幹線敦賀開業に向け、その受け皿づくりの総仕上げを行う - 広域的な観光圏・経済圏を実現する周辺地域とのネットワークの強靱化 - 生活基盤の充実化と交流拠点にふさわしい都市づくりに取組む		
	【戦略5 安全安心分野】 絆でつなぐ安全安心なまちづくり		11 持続可能な都市とコミュニティ 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう
戦 略	【戦略の推進に向けて】 市民とともに進めるまちづくりの深化		5 ジェンダー平等を促進しよう 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正な社会を築こう 17 パートナーシップで目標を達成しよう
	「市民とともに進める」まちづくりをさらに深化 - 交流都市 敦賀の特性を活かし、まちへの誇りを育み、多様性を重視し、全ての市民の皆さんとともに、各戦略とこれに基づく各種取組を推進する		

(2) 敦賀市観光振興計画

「敦賀市観光振興計画」では、基本方針として「多様な観光資源の活用と保全」「ホスピタリティの充実」「マーケティング戦略の推進」「観光振興の推進体制の強化」の4つを掲げ、本市における観光のあり方と方針について定めています。

図表 敦賀市観光振興計画の課題と基本方針

敦賀市観光振興計画(2013年度～2022年度)	
課題	
<u>(1)観光都市としてのイメージ定着</u> - 観光資源の整備や観光プロモーション等により市内外にイメージ定着を図る <u>(2)受入れ体制の充実</u> - 市民のホスピタリティを高める - 観光ガイド・ボランティア等の育成、宿泊、案内板、交通アクセスなどの環境改善、SNS等を利用した情報提供の充実など観光客の視点に立った受け入れ体制の整備 <u>(3)多様な観光資源の活用と保全</u> - マーケティングの視点のもと、既存の観光資源のブラッシュアップや活用方策の見直し、新商品の開発を図る - 保全や保護の観点を踏まえつつ誘客効果の高い観光資源の整備・活用を図る <u>(4)観光振興の推進体制</u> - 市民を含めた推進体制の確立・強化 「観光カリスマ」と呼ばれるようなリーダー的人材の育成・登用 - 近隣自治体や県との広域連携	
基本方針	
①多様な観光資源の活用と保全 - 金ヶ崎周辺やJR敦賀駅周辺の整備構想等、先行計画との均衡を図りながら、観光の核となるエリアを形成する - 多様な観光客のニーズに対応した様々な周遊コースの設定や、農林水産業やエネルギー産業を活用した産業観光・体験型観光の推進を図る ②ホスピタリティの充実 - 常に市民及び観光事業者のおもてなし意識の醸成を図り、それを先導するリーダーの育成を推進する - 観光客に不便なく観光をしていただくために、観光案内板の整備、情報拠点の充実等を図る ③マーケティング戦略の推進 - 敦賀のどんなことをPRしていきたいのか、観光客にどんなことが求められているのかを捉え、的確なコンセプトメイキングを行う - コンセプトやイメージを効果的に定着させるため、ターゲットに応じた情報戦略を立て、多様化する情報通信ネットワーク社会への対応も考慮しつつ観光情報の発信・提供に取り組む ④観光振興の推進体制の強化 - 産官学が協力し、観光振興における役割分担を明確化しながら、協働により取組を進めるため、(社)敦賀観光協会が連携の中心となり、観光事業の推進を担えるよう組織体制及び運営体制の強化に取り組む - 近隣市町との連携を図り、広域での観光ネットワークの形成を推進する	

第 4 章

行動計画の基本方針と取組施策

4-1 本計画の基本方針

第2章の北陸新幹線開業がもたらす効果、第3章の敦賀市の現状整理から、本計画を推進する上での課題として「敦賀のイメージ構築と認知度向上」「交通の要衝としての機能強化」「やさしい心あふれるおもてなし環境の整備」の3つが挙げられます。この3つの課題を解決するための方策として、本計画では5つの基本方針を定め、それぞれの方針に沿った施策を並行して推進します。

「敦賀のイメージ構築と認知度向上」のために、「海・港」「海の幸」「鉄道」など軸となる観光資源を用いて、ストーリー性のある観光拠点を整備し、本市の魅力や、近隣市町や本市とゆかりのある市町との広域連携の強化を進めていきます。また、「交通の要衝としての機能強化」のために、北陸新幹線敦賀開業による拠点性を活かし、嶺南地域の一大拠点として商業・産業の活性化や、近隣市町や本市とゆかりのある市町との広域連携の強化を進めていきます。

やさしい心あふれるおもてなし環境の整備」のために、来訪者が快適に市内周遊するための環境整備や、市民のおもてなし意識向上に向けた取り組みを推進していきます。また、新幹線開業の1年延期を踏まえ、本計画に掲げた取組については、適切な時期やタイミングを考慮して実施し、開業効果の最大化を図られるようにします。このほか、コロナ禍を踏まえ、県内・近隣県からの旅行需要を喚起するマイクログリッドなどの多様な旅行形態への対応、デジタル技術を活用した非接触型の手法の導入、感染予防対策の徹底など、安全・安心に旅行を楽しむことができる環境づくりを推進します。

現状と課題

<1>敦賀のイメージ構築と認知度向上

- 敦賀市を「知っている」人は全体で64.8%。女性の認知度は46.0%と、女性にあまり知られていない(3-2)。
- 敦賀のイメージをつかめていない人が約4割。「気比の松原」や「氣比神宮」などのイメージが浸透していない(3-2)。
- メディアツアーにおいて「杉原千畝、入道の港などはストーリー性を感じられる」などの意見がみられた(3-3)。
- 上位計画の「敦賀市再興プラン」の方向性のひとつとして「敦賀のイメージ戦略の推進」が挙げられている(3-1(1))。
- 関連計画の「敦賀市観光振興計画」において、「観光都市としてのイメージ定着」を課題のひとつとして挙げており、基本方針の中でも「マーケティング戦略の推進」が掲げられている(3-4(2))。

<2>交通の要衝としての機能強化

- 北陸新幹線金沢開業の際、富山県や石川県への企業の本社機能・研究開発拠点の移転・拡充、支店・営業所の開設といった効果がみられた(2-1(1)(2))。
- 福井県内の北陸新幹線金沢開業の効果は、嶺南地域でも少しずつではあるが効果をもたらしていると推測される(2-1(3))。
- 北陸新幹線敦賀開業により、敦賀市は京阪神方面、東海方面、関東方面のいずれからも乗り換えなしで訪れることができるようになる(2-2(1))。
- 北陸新幹線金沢開業前後の敦賀駅の利用者の伸び率は、富山駅、金沢駅に比べると少なく、十分ではない(3-1(1))。
- 敦賀駅周辺では、市内観光の出发点となるにぎわい拠点の整備や広域観光の出发点となる広場や道路の整備が進められている(3-1(5))。

<3>やさしい心あふれるおもてなし環境の整備

- 日本を訪れる外国人旅行者が増加傾向にある中、敦賀市においても、クルーズ客船の寄港を始めとした、外国人旅行者の受入機会が増加する(2-2(3))。
- メディアツアーにおいて「最終的には、人は人を通してその土地を好きになる。」という意見がみられた(3-3)。
- 上位計画の「敦賀市再興プラン」の方向性のひとつとして「各地域資源を活かした回遊性を創出する観光資源開発」が挙げられている(3-4(1))。
- 関連計画の「敦賀市観光振興計画」において、「受入れ体制の充実」「多様な観光資源の活用と保全」を課題として挙げており、基本方針の中でも「多様な観光資源の活用と保全」「ホスピタリティの充実」が掲げられている(3-4(2))。

基本方針

A

市内の拠点整備と回遊性向上

市内の環境整備

- A-1 市街地および観光拠点の整備
- A-2 玄関口としての駅周辺整備
- A-3 来訪者が快適に過ごすための環境整備
- A-4 市内を巡る二次交通の整備

B

マーケティング戦略とプロモーション

情報発信誘客

- B-1 来訪者への敦賀の魅力調査
- B-2 敦賀の魅力の再認識
- B-3 来訪者を受け入れる準備
- B-4 多様なメディアを活用した、敦賀情報の発信
- B-5 開業後を見据えたプロモーションの推進

C

高速交通基盤を活かした拠点性の強化

周遊広域連携

- C-1 広域連携の推進
- C-2 教育旅行・撮影などの誘致

D

敦賀の特色を活かした商業・産業活性化

経済活性化

- D-1 敦賀らしい特産品・土産品の研究・開発・販路拡大
- D-2 空き店舗解消の推進
- D-3 拠点性を活用した産業基盤の構築

E

ホスピタリティあふれる敦賀人の育成

人材育成

- E-1 敦賀市民のおもてなし意識向上
- E-2 インバウンドへの対応
- E-3 民間と行政の連携体制強化
- E-4 移住者の受け入れ・支援
- E-5 誰もが楽しめる魅力的なイベントやまつりの開催

4-2 本計画の目標値

本計画の推進にあたり、北陸新幹線敦賀開業後の 2024 年度における取組の効果を検証するため、以下の 3 つを目標として設定します。

目標①と②については、新幹線開業による本市への来訪者数を把握するための指標として選定します。また、目標③については、新幹線開業による中心市街地の賑わいや回遊性などの取組効果を把握するための指標として選定します。

①敦賀駅乗降客数は、年間 330 万人を見込みます。

北陸新幹線敦賀開業に伴う、敦賀駅の利用者数を予測。

現状値 (参考)	261 万 9 千人 (2017 年度)	→	目標値	330 万人 (2024 年度)
-------------	----------------------	---	-----	------------------

現状値出典：敦賀市が西日本旅客鉄道(株)に独自に行なった聞き取り調査
目標値算出方法：関連計画である「都市再生整備計画」(現在国へ申請中)における平成 35 年度の乗車人員数の目標値、4,510 人/日をもとに、年間の乗降客数を設定した(乗車人員数と降車人員数は同数とする)。

②観光入込客数は、年間 419 万人を目指します。

北陸新幹線敦賀開業後の、敦賀市内観光施設への入込客数を予測。

現状値 (参考)	222 万 8 千人 (2017 年)	→	目標値	419 万人 (2024 年) (253 万人)
-------------	---------------------	---	-----	-----------------------------

現状値出典：福井県観光客入込数(推計)
目標値算出方法：上段の目標値は、第7次敦賀市総合計画における KGI(重要成果指標)として示されている 2024 年度目標値との整合を図り設定した。
＜参考＞令和元年観光客入込数調査において、本市内の計測地点を3地点増やしたことに伴い、3地点分の入込数が増えた。
下段の()内の値は、本計画策定時の目標値であり、増加した3地点における入込数を除いた値である。

③中心市街地の歩行者・自転車通行量(休日)は、1 日あたり 6,700 人を目指します。

来訪者増加による中心市街地のにぎわい創出に伴う、休日の中心市街地(5 地点)の歩行者・自転車通行量を予測。

現状値 (参考)	5,799 人 (2018 年度)	→	目標値	6,700 人 (2024 年度)
-------------	-------------------	---	-----	-------------------

現状値出典：敦賀市歩行者・自転車通行量調査
目標値算出方法：2009 年度～2018 年度の歩行者・自転車通行量の年間の増加率が 1.7%であることから計画期間における毎年の増加率も同様とし、かつ新幹線開業に伴う乗降客数の増加分(25%)のうち、徒歩または自転車により移動する人の割合を 6%(増加分の 1/4)とし、開業年度の増加率は 6%を加算し、2018 年度の数値(5,799 人)からの増加として設定した。

4-3 取組施策

5つの基本方針には、それぞれの方策に係る事業について、内容、実施主体・連携団体、取組スケジュールを定め、新幹線開業に向け、「いつ・誰が・何を・どのようにすべきか」を確認できる構成としています。

なお、一つひとつの事業はプロジェクトごとにまとめています。特に新幹線開業に向けて重要となるプロジェクトについては、「重点プロジェクト」として整理しています。

【表の見方】

【表の見方】

取組方策名

プロジェクト名
(重点プロジェクトは★マークがついています)

プロジェクトの取組内容について説明しています

事業名、事業内容、実施主体・連携団体を明記しています
実施主体は◎、連携団体は○で表記しています

各事業の取組のスケジュール(6年間)を示しています

A-1 市街地および観光拠点の整備																															
★ 金ヶ崎周辺地区の整備																															
金ヶ崎周辺施設整備基本計画に基づき、新ムゼウムを整備するとともに、関係機関との協議を踏まえ、 台の活用や海辺のカフェなどの民間資本の導入を図る																															
	<table> <tr> <th>事業</th> <th>内容</th> <th>実施主体(◎) 連携団体(○)</th> </tr> <tr> <td>① 入道の港ムゼウムの整備・拡充</td> <td>入道の港敦賀ムゼウムの機能を、税関旅具検査所、敦賀港駅、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊の4棟の外観を再現した新ムゼウムに移転し拡充を図る</td> <td>◎敦賀市</td> </tr> <tr> <td>② 民間活力導入による物販・飲食機能の整備</td> <td>金ヶ崎緑地の新ムゼウム前方の用地に民間資本による整備を前提にカフェやショップなどの誘致を図り、市民や来訪者に憩いやすつろぎの提供を推進する</td> <td>◎敦賀市 ○民間企業等</td> </tr> <tr> <td>③ 鉄道遺産の活用</td> <td>譲渡を受けたトワイライトエクスプレスの部品の活用およびキハ 28 形気動車の利活用を図る</td> <td>◎敦賀市 ○「敦賀・鉄道とまちづくり実行委員会」</td> </tr> <tr> <td>④ 転車台の活用および SL 動態保存</td> <td>福井県で所有している転車台の活用および圧縮空気による SL の動態保存および SL や客車、キハ 28 形気動車を格納する機関庫を整備する</td> <td>◎福井県 ◎敦賀市</td> </tr> </table>	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)	① 入道の港ムゼウムの整備・拡充	入道の港敦賀ムゼウムの機能を、税関旅具検査所、敦賀港駅、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊の4棟の外観を再現した新ムゼウムに移転し拡充を図る	◎敦賀市	② 民間活力導入による物販・飲食機能の整備	金ヶ崎緑地の新ムゼウム前方の用地に民間資本による整備を前提にカフェやショップなどの誘致を図り、市民や来訪者に憩いやすつろぎの提供を推進する	◎敦賀市 ○民間企業等	③ 鉄道遺産の活用	譲渡を受けたトワイライトエクスプレスの部品の活用およびキハ 28 形気動車の利活用を図る	◎敦賀市 ○「敦賀・鉄道とまちづくり実行委員会」	④ 転車台の活用および SL 動態保存	福井県で所有している転車台の活用および圧縮空気による SL の動態保存および SL や客車、キハ 28 形気動車を格納する機関庫を整備する	◎福井県 ◎敦賀市															
事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)																													
① 入道の港ムゼウムの整備・拡充	入道の港敦賀ムゼウムの機能を、税関旅具検査所、敦賀港駅、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊の4棟の外観を再現した新ムゼウムに移転し拡充を図る	◎敦賀市																													
② 民間活力導入による物販・飲食機能の整備	金ヶ崎緑地の新ムゼウム前方の用地に民間資本による整備を前提にカフェやショップなどの誘致を図り、市民や来訪者に憩いやすつろぎの提供を推進する	◎敦賀市 ○民間企業等																													
③ 鉄道遺産の活用	譲渡を受けたトワイライトエクスプレスの部品の活用およびキハ 28 形気動車の利活用を図る	◎敦賀市 ○「敦賀・鉄道とまちづくり実行委員会」																													
④ 転車台の活用および SL 動態保存	福井県で所有している転車台の活用および圧縮空気による SL の動態保存および SL や客車、キハ 28 形気動車を格納する機関庫を整備する	◎福井県 ◎敦賀市																													
◆取組スケジュール																															
	<table> <tr> <th>事業</th> <th>2019 年度</th> <th>2020 年度</th> <th>2021 年度</th> <th>2022 年度 (開業年度)</th> <th>2023 年度</th> </tr> <tr> <td>① 入道の港敦賀ムゼウムの整備・拡充</td> <td>建築工事・展示製作</td> <td>開館準備・供用開始</td> <td>供用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 民間活力導入による物販・飲食機能の整備</td> <td>内容検討・ニーズ調査</td> <td></td> <td>設計・整備工事</td> <td></td> <td>供用</td> </tr> <tr> <td>③ 鉄道遺産の活用</td> <td>利活用方策の検討</td> <td>新たな利活用方策の実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 転車台の活用および SL 動態保存</td> <td>用地協議 測量設計</td> <td>整備工事</td> <td></td> <td></td> <td>供用</td> </tr> </table>	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度 (開業年度)	2023 年度	① 入道の港敦賀ムゼウムの整備・拡充	建築工事・展示製作	開館準備・供用開始	供用			② 民間活力導入による物販・飲食機能の整備	内容検討・ニーズ調査		設計・整備工事		供用	③ 鉄道遺産の活用	利活用方策の検討	新たな利活用方策の実施				④ 転車台の活用および SL 動態保存	用地協議 測量設計	整備工事			供用
事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度 (開業年度)	2023 年度																										
① 入道の港敦賀ムゼウムの整備・拡充	建築工事・展示製作	開館準備・供用開始	供用																												
② 民間活力導入による物販・飲食機能の整備	内容検討・ニーズ調査		設計・整備工事		供用																										
③ 鉄道遺産の活用	利活用方策の検討	新たな利活用方策の実施																													
④ 転車台の活用および SL 動態保存	用地協議 測量設計	整備工事			供用																										

事業名、事業内容、実施主体・連携団体を明記しています
実施主体は◎、連携団体は○で表記しています

各事業の取組のスケジュール(6年間)を示しています

A 市内の拠点整備と回遊性向上

鉄道と港に関する資源の多い「敦賀港周辺エリア」、商業施設が多い「氣比神宮周辺エリア」、敦賀の玄関である「敦賀駅周辺エリア」の中心市街地や、名勝・史跡など観光拠点を中心とした整備を推進します。

また、敦賀市内を快適に周遊して楽しめるよう、バリアフリー化や二次交通が充実した環境づくりも進めます。

A-1 市街地および観光拠点の整備

A-2 玄関口としての駅周辺整備

A-3 来訪者が快適に過ごすための環境整備

A-4 市内を巡る二次交通の整備

★ 金ヶ崎周辺地区の整備

金ヶ崎周辺施設整備基本計画に基づき、新ムゼウムを整備するとともに、関係機関との協議を踏まえ、転車台の活用や海辺のカフェなどの民間資本の導入を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	人道の港敦賀ムゼウムの運営	税関旅具検査所、敦賀港駅、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊の4棟の外観を再現した人道の港敦賀ムゼウムの管理運営を行うとともに、企画展などを開催し、人道の港敦賀を広くPRする	◎敦賀市
②	民間資本活用によるオーベルジュ等の賑わい創出施設の整備	金ヶ崎地区を中心に、氣比神宮等周辺エリアを含むまちづくりの実行プランとなるデザイン計画に基づき、民間資本を活用したオーベルジュ等の賑わい施設を整備する	◎敦賀市 ○民間企業など
③	鉄道遺産の活用	譲渡を受けたトワイライトエクスプレスの部品の活用及びキハ28形気動車の利活用を図る	◎敦賀市 ○「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会
④	プロジェクションマッピングの活用	金ヶ崎緑地において、来訪者等の滞在時間の延長及び夜間観光の充実を図る	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (開業年度)	2024年度
①	人道の港敦賀ムゼウムの運営	建築工事 展示制作	準備	R2年11月3日供用開始			
②	民間資本活用によるオーベルジュ等の賑わい創出施設の整備				設計・整備工事		
③	鉄道遺産の活用	利活用方策の検討	新たな利活用方策の実施				
④	プロジェクションマッピングの活用		工事	供用			



▲金ヶ崎周辺地区整備イメージ



▲人道の港敦賀ムゼウム

★ 氣比神宮周辺の魅力向上

中心市街地内で最大の観光資源である氣比神宮の魅力向上に向けた保存整備を行う。また門前町である商店街において、多目的広場の整備やテナントミックスの展開などにより活性化を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑤	集落活性化支援事業	神楽町 1 丁目を中心に、賑わい創出に必要な店舗の誘致、チャレンジショップやコワーキングスペースの整備、担い手育成、空き店舗活用などを推進する	◎敦賀市 ○港都つるが ○商店街振興組合など
⑥	神楽町 1 丁目多目的広場の活用	氣比神宮周辺の来場者駐車場として利用するとともに、イベント開催など多目的に活用する	◎敦賀市 ◎港都つるが ○商店街振興組合など
⑦	名勝けいの明神の整備	国指定名勝「おくのほそ道の風景地 けいの明神(氣比神宮境内)」の保存・整備を行う	◎敦賀市教育委員会 ◎宗教法人氣比神宮
⑧	氣比神宮前公衆便所改修事業	老朽化が進む氣比神宮前公衆便所の改修(洋式化、多目的トイレ拡張、オストメイト・乳幼児室の設置等)を行い、観光客をはじめとする利用者の満足度向上につなげる	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
⑤	集落活性化支援事業	担い手育成 テナントリーシング事業					
⑥	神楽町 1 丁目多目的広場の活用	施工・供用開始	他の取組などによる活用				
⑦	名勝けいの明神の整備					R7 以降保存活用計画・整備基本計画策定	
⑧	氣比神宮前公衆便所改修事業		工事	供用			

景観形成による空間整備

新幹線開業の受け皿の舞台となる中心市街地において、道路空間および建物の外観整備を行うことにより歩行空間などの景観形成を推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑨	本町通り(国道8号)道路空間の活用	公共空間および荷捌き場の美装化や、植栽やベンチなどの整備を行うとともに、公共空間利活用イベントを実施し、賑わいづくりを推進する	◎敦賀市 ○港都つるが ○商店街振興組合
⑩	景観形成推進事業	景観形成推進地区において、地区ごとに定めた独自のガイドラインに基づき景観形成協議会の構成員が所有する建築物などの外観整備を実施し、地区内の景観形成を推進する	◎景観形成協議会 ○敦賀市
⑪	中心市街地の空きビル再生支援	中心市街地の空きビル再生を図り、景観づくりの寄与と、中心市街地賑わい向上促進のため、改修経費の一部を支援する	◎敦賀市
⑫	福井ふるさと広域景観軸の推進	福井原子力センターあつとほうむの屋上を、北陸新幹線敦賀車両基地(仮称)が眺望できる視点場として整備	◎福井県 ◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
⑨	本町通り(国道8号)道路空間の活用	整備工事	→	→	整備工事 →		
⑩	景観形成推進事業	景観形成の推進 →	→	→	→	→	→
⑪	中心市街地の空きビル再生支援				事業実施 →	→	
⑫	福井ふるさと広域景観軸の推進				整備工事 →		

名勝・史跡の整備活用

市内に点在する名勝・史跡について保存・整備などを行い、利活用を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑬	名勝柴田氏庭園の活用	国指定名勝「柴田氏庭園」の建物、庭園について、地域文化活動などのために貸室利用を行うことで、柴田氏庭園の利活用を図る	◎敦賀市教育委員会
⑭	史跡武田耕雲斎等墓の整備	国指定史跡「武田耕雲斎等墓」について、水戸烈士記念館(旧鯉蔵)、史跡のガイダンス施設を含めた一体的な整備を行う	◎敦賀市教育委員会
⑮	史跡金ヶ崎城跡の整備	国指定史跡「金ヶ崎城跡」の保存・整備を行うほか、整備状況を公開するなど、利活用を図る	◎敦賀市教育委員会
⑯	西福寺建物の修復	国指定重要文化財「西福寺御影堂、庫裏」、市指定文化財「西福寺境内建物」の修復・整備を行う	◎宗教法人西福寺
⑰	名勝気比の松原の魅力向上	松原公園、松原海浜、公衆トイレの環境美化や観光客への観光案内の充実を図る	◎敦賀市 ◎敦賀観光協会
⑱	山車(やま)会館魅力向上	山車の歴史的・文化財的価値を再確認し、その魅力を広くPRし、山車会館の展示内容の更新・充実を図る	◎敦賀市
⑲	日本遺産(鉄道遺産)の活用	旧北陸線トンネル群を活用した市民レベルでの観光連携を図る また、観光コンテンツとしてブラッシュアップし、観光商品を造成するなど利活用を図る	◎NPO法人THAP ◎敦賀観光協会

◆取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (開業年度)	2024年度
⑬	名勝柴田氏庭園の活用	整備				公開	
⑭	史跡武田耕雲斎等墓の整備			整備			公開
⑮	史跡金ヶ崎城跡の整備	委員会開催					R7以降整備 基本計画策定
⑯	西福寺建物の修復		事前協議			実施設計、整備	
⑰	名勝気比の松原の魅力向上	環境美化、観光案内の実施					
⑱	山車(やま)会館魅力向上			館内改修			
⑲	日本遺産(鉄道遺産)の活用					事業実施	

★ 敦賀駅周辺エリア整備

新幹線駅前広場(ロータリー、歩行空間、屋根など)の整備および、その周辺施設(緑化空間、散策路連絡橋など)の整備を推進する

また、駅西地区に宿泊機能をはじめ、拠点性向上に資する機能を持たせた官民連携による民間施設を導入する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	駅西地区の交流拠点施設の活用	敦賀駅西地区「otta」や知育・啓発施設「ちえなみき」において、官民連携して市民と来訪者の交流や賑わい創出を図る	◎敦賀市
②	新幹線駅前広場の整備	新幹線駅前広場(ロータリー、歩道上屋など)と一体的に緑化空間、駐車場、散策路連絡橋などの整備を推進する	◎敦賀市 ○鉄道・運輸機構 ○JR 西日本 ○福井県
③	新幹線駅へのアクセス性向上	新幹線駅前広場と国道 8 号バイパスを結ぶアクセス道路(県道敦賀駅東線)と周辺地域とのアクセス性を確保するため、市道 188 号線の整備を推進する	◎敦賀市 ○福井県
④	駅前立体駐車場の管理運営	施設設備等の利用許可、施設等の利用料金、駐輪場所の管理等の指定管理業務をタイムズ 24・タイムズサービス(株)グループに委託(自動車 321 台、自転車 638 台、バイク 53 台、レンタサイクル 40 台収容)	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	駅西地区の交流拠点施設の活用	土地活用 エリアの設計	土地活用 エリアの整備		事業運営		
②	新幹線駅前広場の整備	詳細設計 用地買収	工事				施設管理
③	新幹線駅へのアクセス性向上	物件補償 用地買収 工事	詳細設計 物件補償 用地買収 工事	物件補償 用地買収 工事	工事		
④	駅前立体駐車場の整備	工事	供用				



玄関口としての交流機能強化

市内で生産・販売されているお土産販売の促進やイベントの実施による賑わい創出、嶺南地域の観光情報の充実を行い、オルパークや駅前広場における交流拠点としての機能強化を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑤	市内の土産物の販売推進	オルパーク内にあるレンタルスペースを活用し、敦賀市内で生産・販売されているお土産販売を推進する	◎民間企業など
⑥	市民と連携したイベントなどによる賑わいの創出	オルパークや駅前広場を活用し、市民と連携したイベントを実施して賑わい創出を図る	◎民間企業など
⑦	嶺南地域の観光情報の充実・発信	敦賀駅が嶺南地域の観光拠点となるよう、パンフレットコーナーの充実や新幹線開業にあわせ臨時観光案内機能を設けるなど、観光情報の充実を図る また、新幹線開業に向けた嶺南誘客キャンペーンに県及び嶺南6市町と連携して取り組む	◎敦賀観光協会 ○オルパーク ○若狭湾観光連盟
⑧	知育・啓発施設の管理運営	書籍その他のメディアの提供に関する業務やイベントの企画等の指定管理業務を丸善雄松堂・編集工学研究所共同企業体に委託	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
⑤	市内の土産物の販売推進	販売推進、内容検討					→
⑥	市民と連携したイベントなどによる賑わいの創出	オルパークや駅前広場を活用したイベントの開催					→
⑦	嶺南地域の観光情報の充実・発信	嶺南自治体で取組む可能性を注視					→
⑧	知育・啓発施設の管理運営				指定管理委託		→

★ キャッシュレス決済環境の充実化

県外客やインバウンドの高まりにより、ニーズが増えるキャッシュレス決済について、端末導入の支援や、活用セミナーを開催し、商機の拡大と来訪者受入環境の向上を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	キャッシュレス端末導入推進	県外客やインバウンドの高まりにより、よりニーズが増えるキャッシュレス決済の端末導入を支援し、商機の拡大を図る	◎敦賀市
②	電子マネー・カード決済や SNS 活用セミナーの開催	市内事業者向けに、電子マネー・カード決済や集客に向けた SNS の活用セミナーを実施し、観光客の受入環境整備を推進する また、地元事業者がモバイル POS レジやカードリーダーなどの実機を体験できるコーナーを常設し、円滑な機器導入などを支援する（体験コーナーは R2 年度まで実施）	◎敦賀商工会議所

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	キャッシュレス端末導入推進	支援実施 →	補助事業実施 →				
②	電子マネー・カード決済や SNS 活用セミナーの開催	セミナー、体験コーナーを通じた支援の実施 →			キャッシュレス化、非対面対応、集客に向けた SNS 活用に関するセミナー等による情報提供、個別支援の実施 →		

周遊しやすいまちなか環境の整備

観光地への案内・誘導サインの整備やバリアフリー化など、来訪者が安心して周遊できるような環境を整備する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
③	バス利用者の利便性向上	市内を運行するバスに交通系 IC カードシステムを導入し、バス利用者の利便性を図る	◎敦賀市
④	案内・誘導サインの整備	JR敦賀駅から氣比神宮周辺、金ヶ崎周辺及び舟溜り地区など中心市街地の主要な観光スポット間に整備されている誘導サインを適切に管理するとともに、新幹線開業に合わせた案内・誘導サインの整備・更新を行う	◎敦賀市
⑤	まちなかのユニバーサルデザイン導入	障がい者や外国人旅行者、高齢者など、だれもが訪れて安心できる環境整備(案内表示、多目的トイレ、駐車スペース等)を推進する	◎各施設管理者

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
③	バス利用者の利便性向上				システム構築・導入		運用開始
④	案内・誘導サインの整備	工事	供用			工事・委託等	供用
⑤	まちなかのユニバーサルデザイン導入	各施設管理者によるバリアフリーや障害者対応、案内表示の外国語対応等の実施					

旅行者の安全確保に向けた防災対策

防災情報が提供できる自動販売機の設置を推進し、来訪者の防災対策を推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑥	防災ラジオ付き自動販売機の普及	敦賀 FM 放送(株)、北陸コカ・コーラボトリング(株)の協力により、防災ラジオ付き自動販売機を市内に設置する	◎敦賀市 ○民間企業

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
⑥	防災ラジオ付き自動販売機の普及	現状調査等(公共施設)、普及啓発、導入	設置場所の調査等(民間施設等)普及啓発、導入	設置場所の選定等、普及啓発導入	普及啓発、導入		

★ ぐるっと敦賀周遊バスの運行

JR 敦賀駅を起点として、主要観光スポットや商業施設を巡る「ぐるっと敦賀周遊バス」を運行し、来訪者の回遊性の向上を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	ぐるっと敦賀周遊バスの運行	JR 敦賀駅を起点として、主要観光スポットや商業施設を巡る「ぐるっと敦賀周遊バス」について、新幹線開業に向けたダイヤ改正を行い、来訪者の利便性向上を図る	◎敦賀市 ◎民間企業

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	ぐるっと敦賀周遊バスの運行	運行(2017,10 月 ルート改編					→
			利便性向上策の検討、実施				

★ シェアサイクル拠点の整備

JR 敦賀駅や氣比神宮、金ヶ崎緑地など、市内 9 箇所に IC カードなどを活用して無人で貸出、返却が可能なシェアサイクル拠点を整備し来訪者の回遊性の向上を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
②	シェアサイクル拠点の整備	JR 敦賀駅など中心市街地を中心に11箇所整備したシェアサイクル拠点について、新幹線開業に向けた更なる利用促進を図るとともに、ポートの拡充整備を行う	◎敦賀市 ◎民間企業 ○敦賀観光協会

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
②	シェアサイクル拠点の整備	整備工事 →	事業運営	拠点拡充(R3~R5)		MaaS カード販売(R5~)	→

コミュニティバスの効率的な運行

バスロケーションシステムを導入したコミュニティバスの運行を通じて、来訪者に対する利便性の向上を図り、観光面での利用を推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
③	コミュニティバスの運行、利便性向上	停留所名などを入れると最適なダイヤを表示する乗換検索システム、バスの位置情報や運行状況などがリアルタイムで分かるバスロケーションシステムを導入したコミュニティバスを運行し、市民や来訪者が気軽に乗れるバス環境を構築し、利用者増加を図る	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
③	コミュニティバスの運行、利便性向上	システム導入(長期契約)					



B マーケティング戦略と プロモーション

敦賀駅が北陸新幹線の当面の始発駅・終着駅となることで、多くの人が「敦賀」の名称を目にすることになり、敦賀を知ってもらう最大の好機となります。そのため、敦賀市民の視点、来訪者の視点から敦賀の魅力を分析しマーケティング戦略を立て、敦賀を訪れてもらうためのプロモーション活動を行います。

B-1 来訪者への敦賀の魅力調査

B-2 敦賀の魅力の再認識

B-3 来訪者を受け入れる準備

B-4 多様なメディアを活用した、敦賀情報の発信

B-5 開業後を見据えたプロモーションの推進

★ プロモーションに向けたニーズ調査

多様化する観光客のニーズを的確に捉え、新たな地域資源の掘り起こしや観光コースの設定などに反映させるために、来訪者に向けたニーズ調査を実施し効果的なプロモーションにつなげる

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	敦賀を訪れた来訪者へのアンケートなどによる観光客のニーズの把握	来訪者にアンケート調査を行い、訪れた印象、サービスの満足度など敦賀で何を見たいのか、どんな体験をしたいのか傾向を把握・分析することで、観光客のニーズ把握を推進する	◎敦賀市
②	周遊バス利用者の満足度調査	ぐると敦賀周遊バス利用者にアンケート調査および結果分析を行うバスの利用満足度を測る調査結果をもとに、周遊バスの改善に向けた課題の洗い出しを図る	◎敦賀市 ◎民間事業者

◆ 取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	敦賀を訪れた来訪者へのアンケートなどによる観光客のニーズの把握	アンケート調査の実施					
			他の取組への反映				
②	周遊バス利用者の満足度調査	満足度調査の実施、結果の分析、事業への反映					

★ 市民の意識醸成

新幹線の開業に向けて、工事などの進捗状況や地域資源などについて学び、敦賀の魅力の再認識を促すとともに、まちづくりへの参画や新幹線開業に向けた意識を高め、おもてなしの向上を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	広報つるがへの新幹線関連事業特集記事掲載	市や民間、市民団体などが取り組む新幹線関連事業などの特集記事を定期的に広報つるがに掲載することで、北陸新幹線敦賀開業を市民に広くPRし機運の醸成を図る	◎敦賀市
②	観光ボランティアガイド派遣による講座開催	学校や企業などにボランティアガイドを派遣し、敦賀のまちについての講座を開催することで、おもてなし意識の向上を図る	◎観光ボランティアガイド つるが
③	児童生徒へのふるさと学習の推進	敦賀の自然に触れる体験や歴史・文化施設の見学などを通じて、ふるさとへの理解と愛着を高め、今後のまちづくりなどへの参画意識の向上を図る	◎敦賀市教育委員会 ○敦賀市 ○敦賀市教頭会 ○敦賀市小教研社会科部会
④	修学旅行での敦賀PR	市内小・中学生が修学旅行や遠足の訪問先において観光PRを行うため、内容や方法の事前研修を行う	◎敦賀市 ◎敦賀市教育委員会 ○敦賀観光協会 ○市内小中学校
⑤	新幹線誘客キャッチコピー「つるが、発見！」の活用	キャッチコピーのロゴマークを一般公募することにより、市民一人ひとりによる敦賀の魅力の再認識を促す また、決定したロゴマークを新幹線開業関係のノベルティグッズに使用することにより、市外の方による敦賀の魅力の発見を図る	◎協働推進組織
⑥	北陸新幹線敦賀開業みんなで応援プロジェクト	新幹線開業への市民の期待や歓迎の想いを映像で収録し、発信する機会と仕組みをつくることで、市内の開業機運醸成を図る あわせて、市内で展開するカウントダウンボード作製等の市民参加型の取組による盛り上がりを市外へ広報展開する	◎敦賀市
⑦	おもてなし隊の活動を通じた敦賀の観光資源の再認識	おもてなし隊の活動を通じて、敦賀の観光資源を再認識するとともに、高校生が大人と連携し、活動することにより、新しい発見に繋げる	◎NPO法人THAP

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	広報つるがへの新幹線 関連事業特集記事掲載※	新幹線工事の状況		・新幹線工事の状況 ・各種開業前イベントの状況			新幹線開業 後の各種イ ベント等
②	観光ボランティアガイド 派遣による講座開催	講座開催					
③	児童生徒へのふるさと 学習の推進	出前授業、現地見学、PR 活動、ふるさとマップ配布、マップを生かした学習					
		副読本改訂版 1 の使用	副読本改訂版 2 の使用	副読本改訂版 3 の使用			
		副読本内容改訂 2	副読本内容改訂 3	副読本内容改訂 4			
④	修学旅行での敦賀 PR	事業実施					
⑤	新幹線誘客キャッチコ ピー「つるが、発見！」 の活用					公募	ロゴマーク活用
⑥	北陸新幹線敦賀開業 みんなで応援プロジェク ト					事業実施	
⑦	おもてなし隊の活動を 通じた敦賀の観光資源 の再認識					事業実施	

※各課等へ新幹線関連事業の情報収集を行い、記事掲載計画を立案し、広報紙に掲載(状況により、掲載回数、内容等を適宜変更)

★ 敦賀独自の着地型プログラムの開発・販売

体験型観光の高まりにより、その地域ならではの観光プログラムの開発や観光商品の販売を行うことで、観光客の中心市街地への誘導を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	着地型観光プログラムの開発および敦賀オリジナルの観光商品の販売	市民発案による着地型観光プログラムを開発し、敦賀オリジナルの観光商品として販売することで、誘客推進を図る	◎敦賀観光協会 ◎敦賀市
②	遊敦塾の運営	鉄道遺産や北前船などの歴史遺産や、海山の食材を活かした「食」をテーマにしたツアーを推進し、敦賀独自の地域資源を活用した祭り参加体験などの企画を造成・販売する	◎敦賀観光協会 ○旅行者
③	魅力的な観光ルートの造成及び発信	季節や目的・歴史などテーマ・ストーリーを設定した魅力的な観光コースの造成及び発信に取り組む また、観光タクシーの運行など交通事業者と連携した事業を推進する	◎敦賀観光協会 ◎敦賀商工会議所

◆ 取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	着地型観光プログラムの開発および敦賀オリジナルの観光商品の販売	プログラム開発	体験観光支援			観光商品として販売	
②	遊敦塾の運営				新企画造成、ツアー等募集・実施		
③	魅力的な観光ルートの造成及び発信						

つるが旨いもんマップの作成・配布

敦賀の魅力の一つである「食」を提供する飲食店情報を提供し、観光客の市内飲食店への誘導を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
④	つるが旨いもんマップの作成・配布	食べ歩きマップを作成・配布し、地域資源を活用した物産品や飲食物の認知度拡大を図る	◎敦賀商工会議所

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
④	つるが旨いもんマップの作成・配布	つるが旨いもんマップの作成・配布					
			「お土産情報」発信				
				ナイトマップの作成・配布			

店舗等の受け入れ環境整備支援

北陸新幹線敦賀開業や今後のインバウンド観光客の増加を見据えた受入環境の整備に支援を行う

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑤	ホテル・旅館の受け入れ環境整備支援	ホテル・旅館の受け入れ環境の整備を支援し、市内宿泊客の満足度向上及びピーター確保につなげる	◎敦賀市
⑥	店舗等の魅力向上支援	商業事業者等が実施するリノベーション等を支援し、誘客に向けた事業者の機運醸成を促進するとともに、店舗の魅力向上を図る	◎福井県 ◎敦賀市 ◎敦賀商工会議所
⑦	中小企業のインバウンド対応支援	中小企業者等が行うキャッシュレスの導入や、商品メニュー・パンフレット等の多言語化事業を支援する 多言語で飲食店を紹介するアプリの運用を支援する	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
⑤	ホテル・旅館の受け入れ環境整備支援				補助		
⑥	店舗等の魅力向上支援						
⑦	中小企業のインバウンド対応支援						

★ プロモーション方策の検討と実施

開業効果の最大化を果たす上で、事前のプロモーション活動が不可欠となることから、他の取り組みにおけるニーズ調査や観光コースの設定などを踏まえ、県・嶺南地域や JR などと連携したプロモーション活動を行う

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	プロモーション計画の策定・実施	敦賀市外への情報発信を戦略的に進めていくために、プロモーション計画を策定し、計画に沿ったプロモーションを実行する	◎協働推進組織
②	新幹線開業に向けたイベントの開催や情報発信の強化	新幹線開業時に合わせたイベントおよびプレイベントを開催し賑わいの創出や市民意識の醸成を図る デスティネーションキャンペーンなどの大型キャンペーンに向けたプロモーション方策を検討する	◎協働推進組織

◆ 取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	プロモーション計画の策定・実施		計画の策定 →		プロモーション活動(広告付き年賀状など) →		
②	新幹線開業に向けたイベントの開催や情報発信の強化		企画・準備 →		プレイベントの開催 →	開業イベントの開催 →	
					大型キャンペーン対応 →		

敦賀の認知度向上

出向宣伝やPR 活動を行い、敦賀の情報を広く発信することで、敦賀の認知度向上を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
③	商談会への参加	北陸新幹線の延伸によりアクセス性の高まる北陸や首都圏での商談会に出展し、販路開拓を行うことで、認知度向上を図る	◎敦賀商工会議所
④	敦賀観光協会による旅行社などへの情報発信	敦賀にリピーターとして来ていただけるよう地域ネタをコーディネートし、旅行会社や代理店に観光情報、企画の提供および訪問営業を行い、認知度向上を図る	◎敦賀観光協会
⑤	人道の港とゆかりのある国を対象としたプロモーション	人道の港と縁のある、イスラエル、ポーランド、リトアニア、オランダや、ユダヤ系住民の多い北米などからの来訪者をターゲットに PR を行い、誘客を推進する	◎敦賀市
⑥	観光出向宣伝及び物産展などへの参加などによる情報発信	関西・中京地域や、東京をはじめとする北陸新幹線沿線地域(長野、富山、金沢など)での観光出向宣伝や物産展などのイベント参加により、敦賀の観光資源や食、土産物などの PR を実施し、認知度向上を図る また、嶺南地域の市町と連携して新幹線開業に向けた PR を推進する	◎敦賀観光協会 ◎敦賀商工会議所 ○若狭湾観光連盟 など
⑦	新聞や雑誌、SNS など多様な媒体を活用した観光情報などの発信	新聞や雑誌、テレビ、ラジオ、高速バス背面などへの広告掲載を通じ敦賀市を広くPR し、観光客の増加を図る また、ホームページや SNS の即時性の高い媒体の活用により旬の観光情報の発信を行う	◎敦賀観光協会 ◎敦賀市 ○若狭湾観光連盟 など
⑧	SNS を活用したキャンペーン活動 (# つるがキャンペーン)	SNS を活用したキャンペーンを実施し、敦賀市の認知度向上による観光誘客の促進および市内経済の活性化を図る	◎敦賀市
⑨	つるがの食・味情報発信	情報発信力のある料理人等に敦賀へ来ていただき、敦賀の名産品を使った料理の様子、市内飲食店の様子を SNS で発信してもらい敦賀の食に関する魅力を広くPR する	◎敦賀市
⑩	敦賀ネットモール利活用の推進	市内商業店舗の情報発信の強化に取り組むため、市内高校生などの協力のもと、手軽にアクセスできる情報発信サイトを運営する	◎敦賀市
⑪	敦賀開催イベントへのPRブース出展	市内で開催する、県外参加者が多数見込まれるイベントやスポーツ大会等に、キッチンカーなどによる飲食を含めた敦賀開業PRブースを出展し、県外からの大会参加者等に本市の認知度向上を図る	◎敦賀市
⑫	首都圏等対象プロモーション事業の実施	首都圏イベントへの出展による民間交流拡大や、首都圏の新聞社等への広告、メディア取材誘致活動等により、本市の知名度向上を図る。 また、新幹線開業前後における関西・中京からの誘客を促進するため、出向宣伝などのPRを実施する。	◎敦賀市
⑬	市内イベント・グルメ等の情報集約サイト「クチコミつるが」による情報発信	市内で開催されている各イベント情報や、SNS で投稿されたグルメ・イベント等に関する「クチコミ情報」を閲覧することができる情報発信サイトを運営する	◎敦賀商工会議所
⑭	市勢要覧の作成	市の取組などを紹介する冊子を作成し、各種シティセールスや視察等来敦者への広報ツールとして活用し PR を推進する また、観光パンフレットと連携し記載内容の役割分担を行う	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
③	商談会への参加	商談会への参加・展開					
④	敦賀観光協会による旅行会社などへの情報発信	事業実施					
⑤	人道の港とゆかりのある国を対象としたプロモーション	プロモーションの実施					
⑥	観光出向宣伝および物産展などへの参加などによる情報発信	埼玉または群馬・長野でのPR活動の実施	埼玉または群馬・長野でのPR活動の実施				
		民間事業者と連携し、観光出向宣伝および物産展等への参加による各地でのPRを実施					
		嶺南地域の市町と連携したPRを実施					
⑦	新聞や雑誌、SNS など多様な媒体を活用した観光情報などの発信	ホームページ、SNS の活用による旬の観光情報の発信					
		新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等による宣伝広告掲載					
		ラッピングバスの運行					
⑧	SNS を活用したキャンペーン活動（＃つるがキャンペーン）	企画立案・拡充の検討・実施					
⑨	つるがの食・味情報発信			PRの実施			
⑩	敦賀ネットモール利活用の推進	準備		PRの実施			
⑪	敦賀開催イベントへのPRブース出展				PRの実施		
⑫	首都圏等対象プロモーション事業の実施						
⑬	市内イベント・グルメ等の情報集約サイト「クチコミつるが」による情報発信						
⑭	市勢要覧の作成					毎年更新を基本とし、その年のトピックスを掲載	

デスティネーションキャンペーン、大阪・関西万博を契機としたプロモーションの推進

敦賀駅が北陸新幹線の終着駅となることが敦賀を知ってもらう最大の好機と捉え、デスティネーションキャンペーン、大阪・関西万博のタイミングと合わせた、敦賀の魅力を発信するプロモーションを推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	北陸デスティネーションキャンペーンに向けた取組の推進	令和 6 年 10 月から始まる北陸デスティネーションキャンペーンに向け、敦賀の魅力的な観光素材の集約及び発信を行う あわせて、令和 5 年 11 月に開催される全国宣伝販売促進会議のレセプション・エキスカーションにおいて、全国の旅行会社社員に敦賀の観光をPRし、北陸デスティネーションキャンペーンでの誘客につなげる	◎敦賀市
②	大阪・関西万博に向けた取組の推進	大阪・関西万博に向けた国等の動向に注視し、観光素材の更なる磨き上げ等を進めるとともに、関西からの誘客やインバウンドを対象とした出向宣伝・商談会等のプロモーションを行う	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	北陸デスティネーションキャンペーンに向けた取組の推進						
②	大阪・関西万博に向けた取組の推進						

C 高速交通基盤を活かした拠点性の強化

北陸新幹線の当面の終着駅・始発駅となることで、交通結節点としての機能が強化されることから、その立地性を活かし、嶺南地域への教育旅行、ドラマ・映画などの撮影などの誘致を推進します。

また、敦賀駅が嶺南地域へアクセスするための重要な拠点となることから、近隣地域との連携を図りながら、観光 PR やインバウンド向けのプロモーション活動を推進します。



C-1 広域連携の推進

C-2 教育旅行・撮影などの誘致

★ 嶺南市町との広域連携の推進

嶺南地域の玄関口として嶺南市町と連携したイベントの開催や、二次交通を活用した取組を実施し、広域連携を推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	インバウンド誘客の推進	美浜町や若狭町と連携し、台湾でのインバウンド商談会への共同出展などを行い誘客を推進する	◎嶺南 6 市町 ◎敦賀・美浜・若狭広域観光推進会議 ○各市町観光協会 など
②	観光パンフレットの多言語化	外国人観光客が市内の観光地を周遊し易いよう、多言語総合パンフレットを作成する(英語、韓国語、繁体字、簡体字等)	◎敦賀市
③	嶺南観光アプリの運営	嶺南地域への来訪者向けに、アプリ(LINE)を通じて、嶺南地域の商業施設で利用できるクーポンを配布し、地域の商業活性化を図る	◎福井県(嶺南振興局)
④	嶺南地域公共交通網形成計画の策定	嶺南地域の公共交通の活性化、新幹線開業効果の嶺南全域へ波及を目的とした、福井県と嶺南 6 市町で協議会を設置し、計画策定を推進する	◎福井県 ◎嶺南 6 市町など ○民間企業
⑤	広域観光バスの運行	敦賀駅発着の氣比神宮、金ヶ崎など市内観光地や三方五湖、年縞博物館などを巡る広域観光バスを運行し、広域的な周遊観光を推進する	◎敦賀・美浜・若狭広域観光推進会議 ○美浜町、若狭町、各市町観光協会

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	インバウンド誘客の推進	インバウンド商談会への共同出展					
②	観光パンフレットの多言語化						
③	嶺南観光アプリの運営	アプリの運営・管理					
④	嶺南地域公共交通網形成計画の策定	計画策定	事業実施				
⑤	広域観光バスの運行		バスの運行				

★ テーマ別広域連携の推進

本市の歴史的資源である鉄道遺産や北前船などのテーマに基づき、関係市町と観光コースの設定などを行うことにより広域連携を推進し、県外からの誘客を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑥	鉄道遺産活用による観光振興推進	明治期の鉄道遺産などの近代化遺産が数多く残る長浜市、敦賀市、南越前町の3市町で組織する長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会において、日本遺産に認定された「世界へつながる鉄道のキセキ」の構成文化財である旧北陸線トンネル群などの鉄道遺産を活用した広域観光を推進する	◎長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 ○長浜市 ○南越前町
⑦	北前船日本遺産の観光振興推進	日本遺産に認定された「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財などを活用した観光振興に推進するとともに、ストーリーにゆかりの深い市町と連携し、広域的な観光誘客策を推進する	◎敦賀市 ◎北前船寄港地フォーラム開催実行委員会 ○南越前町 ○他認定市町
⑧	日本海縦断観光ルートの推進	日本海縦断観光ルート・プロジェクト推進協議会のもと「人材育成・観光交通・情報」の3つのプラットフォームを構築し、WEBサイトの運営や日本海地域の周知に向けたイベントを実施する また、各地域を繋ぐ旅行商品の造成を行う	◎日本海縦断観光ルート推進協議会 ○新潟市 ○舞鶴市 ○豊岡市 など
⑨	杉原千畝ルートの推進	在カウナス(リトアニア)日本領事館の杉原千畝元領事代理に縁ある場所や、その周辺地域への観光客誘客を図るために効果的な周遊ルートの受入環境整備およびプロモーション活動などを実施する	◎杉原千畝ルート推進協議会 ○高山市 ○八百津町 ○白川村 ○金沢市 ○名古屋市
⑩	松尾芭蕉・「奥の細道」による観光振興推進	「松尾芭蕉杖措きの地・敦賀」を全国に発信するとともに、「奥の細道」ゆかりの自治体と連携し、広域的な観光誘客策を推進する	◎敦賀市 ◎敦賀市教育委員会 ○大垣市などゆかりの自治体
⑪	JR 西日本が運用する観光型MaaSとの連携	JR 西日本が運用する観光型MaaS「tabiwa」と連携し、観光施設等の電子チケットやお得なクーポンの充実を図り、敦賀を訪れる観光客の利便性を高める	◎敦賀市
⑫	若狭湾サイクリングルートの推進	嶺南を横断する広域サイクリングルート(わかさいく)を利用したサイクルツーリズムを推進するため、県及び嶺南6市町で連携し、ナショナルサイクルルートの認定に向けたハード及びソフト整備を進める	◎敦賀観光協会 ◎敦賀商工会議所 ◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
⑥	鉄道遺産活用による観光振興推進	鉄道遺産を活用した広域観光の推進					
⑦	北前船日本遺産の観光振興推進	ゆかりのある自治体と連携、「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財を活用した観光振興の推進近代化遺産を活用した広域観光の推進					
⑧	日本海縦断観光ルートの推進	WEB サイト運営、イベント実施、各地域をつないだ旅行商品の造成					
⑨	杉原千畝ルートの推進	杉原千畝ルート協議会による共同プロモーション活動、インバウンド商談会への共同出展					
⑩	松尾芭蕉・「奥の細道」による観光振興推進	奥の細道紀行 330 年記念事業の実施 ゆかりのある自治体と連携、「杖措きの地・敦賀」を全国に発信					
⑪	JR 西日本が運用する観光型MaaS との連携						
⑫	若狭湾サイクリングルートの推進						

★ 教育旅行・学生合宿の誘致

将来の観光リピーターの創出に向けて、修学旅行や合宿誘致などの教育旅行の誘致を推進するとともに、隣接市町と連携し民泊の促進による受入環境の拡充を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	教育旅行・学生合宿の誘致	福井県外に所在する高等学校、高等専門学校、短期大学、大学の生徒又は学生で構成され、敦賀市内で宿泊合宿を行う部活動、サークル活動、ゼミ活動などに対し、宿泊経費を一部補助する	◎敦賀市 ○福井県
②	修学旅行などでの民泊の促進	新幹線開業により、関東エリアからの修学旅行の増加による民泊需要の増加が見込まれるため、美浜町、若狭町との連携の下、受入拡充を図る	◎敦賀市 ○美浜町、若狭町

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	教育旅行・学生合宿の誘致	教育旅行・学生合宿の誘致					→
②	修学旅行などでの民泊の促進	修学旅行等での民泊の促進					→

フィルムコミッションの推進

ロケや撮影のサポートなどを行うとともに、受入体制の整備を行い、ドラマや映画の撮影の受け入れを推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
③	フィルムコミッションの推進	ドラマ、CM、映画などの撮影の問い合わせがあった際に、ロケ地などの紹介、関係機関との調整、エキストラの確保といった撮影のサポートを通じて、受け入れを推進する	◎敦賀市 ○ジャパンフィルムコミッション

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
③	フィルムコミッションの推進	フィルムコミッションの推進					→

D 敦賀の特色を活かした 商業・産業活性化

「敦賀ふぐ」などの海の幸、「東浦みかん」などの農産品といった敦賀ならではの特産品を活用し、敦賀を訪れたいと思えるような魅力的な商品づくりを推進します。

また、京阪神方面、東海方面、信越・北関東方面のどの方面にもアクセスが容易になるという「交通の要衝」の特性を活かし、企業誘致や地場産業の事業拡大の支援を行います。

D-1 敦賀らしい特産品・土産品の

研究・開発・販路拡大

D-2 空き店舗解消の推進

D-3 拠点性を活用した産業基盤の構築

★ 新商品・敦賀ブランドの推進

新幹線開業に向けた新商品の開発や、個店の特色ある名物づくりを推進するとともに、関係機関と連携した敦賀ブランドの研究開発を行う

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	「敦賀ブランド」開発・確立調査研究事業	「敦賀ブランド開発検討会」を設置し、敦賀観光協会や農業協同組合、漁業協同組合と連携し、「敦賀ふぐ」「敦賀真鯛」をはじめとした食文化や「鉄道と港のまち」をテーマとしたブランドづくりに向けて、地域ぐるみで研究開発を行うことで、ブランド確立を図る	◎敦賀商工会議所
②	特産品・土産品の開発及び販売店舗の拡充	敦賀をPRする新商品やパッケージ開発、北陸新幹線敦賀開業のメッセージ発信を目的とする商品開発を推進する また、既存を含めた商品の市内外の販路拡大を推進する	◎敦賀市
③	商品開発・販路開拓塾	敦賀の名物づくりに向けてのセミナー、相談会(商品開発・販路開拓塾)を開催し、名物づくりを行う。	◎敦賀商工会議所
④	敦賀ドレッシングの販売展開	伝統野菜「黒河マナ」と敦賀の魚から作った魚醤を使用したドレッシングの改良および販路拡大を行う	◎敦賀商工会議所

◆取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (開業年度)	2024年度
①	「敦賀ブランド」開発・確立調査研究事業	研究開発の推進		ブランド創出 研究開発の推進	ブランド確立・研究開発の推進、 ブランド認定マークの開発	ブランド力向上や 創出の環境整備、 ブランド認定マークの運用	販路拡大
②	特産品・土産品の開発及び販売店舗の拡充	補助事業実施					
③	商品開発・販路開拓塾	セミナー・相談会等の開催、合同プレス発表会の開催				セミナー・相談会等の開催	
④	敦賀ドレッシングの販売展開	販売推進					

生産基盤の強化と販路拡大

「東浦みかん」、「敦賀ふぐ」、「敦賀真鯛」などの敦賀らしい特産品について生産基盤の強化と販路拡大を推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
⑤	東浦みかんのブランド力強化と生産力拡大	苗木の新植や改植、ブランド化に必要な PR 用品の作成を行い、収量拡大、品質向上、販売額の増加を図り、農業経営の向上を図る	◎敦賀市 ○JA ○JA 東浦みかん部会
⑥	「敦賀ふぐ」、「敦賀真鯛」の養殖を奨励	「敦賀ふぐ」の種苗購入並びに PR 活動に係る経費を助成し、漁業経営の安定化と養殖魚の販路拡大を図る	◎敦賀市 ○敦賀市漁業協同組合
⑦	「敦賀真鯛」、「敦賀ふぐ」のブランド推進事業	「敦賀真鯛」、「敦賀ふぐ」のブランド推進のため PR 活動及び流通経費に対する補助を行い、販路及び消費の拡大を図る	◎敦賀市
⑧	杉箸アカカンバのブランド力強化と生産力拡大	栽培支援、PR 用広告などの作成、農作業ボランティアの実施など、伝統野菜「杉箸アカカンバ」の維持発展や知名度向上を推進する	◎敦賀市 ○杉箸アカカンバ生産組合
⑨	食・体験・宿泊強化による受入環境整備事業	令和3年度より開発されてきた新ご当地グルメ「つるがUMAMI グルメ」と「体験観光素材」の内容について、おもてなしパスポートや、じゃらん net に掲載する特集ページを作成し、情報発信による誘客 ならびに、市内店舗を周遊して頂くなど、誘客・消費拡大を行う	◎敦賀商工会議所 ◎敦賀観光協会

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
⑤	東浦みかんのブランド力強化と生産力拡大	苗木新植 園地造成	園地造成		新みかん園開園(一部開園)		開園(予定)
⑥	「敦賀ふぐ」、「敦賀真鯛」の養殖を奨励	養殖奨励					
⑦	「敦賀真鯛」、「敦賀ふぐ」のブランド推進事業		補助事業実施				
⑧	杉箸アカカンバのブランド力強化と生産力拡大	栽培支援、農作業ボランティアの実施					
⑨	食・体験・宿泊強化による受入環境整備事業				誘客・消費拡大		

★ まちなか創業の推進

空き店舗の調査とまちなか創業の支援により、中心市街地の商業活性化を促進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	中心市街地での創業支援	商店街にある空き店舗の調査を実施するとともに、市内不動産事業者と連携し、空き店舗の情報を提供するサイトを運用する また、まちなか創業等促進支援事業費補助金を充実させ、中心市街地でのコワーキングスペースやシェアオフィスも踏まえた創業などを促す	◎港都つるが ◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	中心市街地での創業支援	調査の実施、サイトの運用、補助事業実施					

★ 拠点性を活用した産業基盤の構築

産業団地への企業誘致や企業の技術開発、研究開発などを支援し、新たな企業の進出や事業拡大に伴う雇用者、定住者の増加を推進する

併せてハーモニアスポリス構想を推進し、産業構造の複軸化を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	第2産業団地への企業誘致	企業立地促進補助金による、企業誘致を行い、新たな企業の進出や事業拡大に伴う雇用者、定住者の増加を推進する	◎敦賀市
②	サテライトオフィスなどIT企業の誘致	駅周辺など利便性が向上する地域に対し、IT企業の進出を促し雇用者、定住者の増加を推進する	◎敦賀市
③	サテライトオフィス整備促進	新型コロナウイルス感染症の影響による新たな働き方を図る企業に対して、サテライトオフィスの誘致を促進させるため、開設に必要な改修費用等の補助を実施	◎敦賀市
④	産業間連携推進等事業費	商業化が見込まれる企業の技術開発、研究開発などに補助を行うことで、敦賀市における産業振興を図るとともに、将来的な産業間連携の基盤の形成を促進する	◎敦賀市
⑤	嶺南 E コースト計画推進事業費	エネルギーの多元化を目的とし、水素社会形成に関する計画を策定 嶺南 E コースト計画及び共創会議の将来像に、当該計画を反映し、全県的な取組として推進する	◎敦賀市 ○国 ○福井県 ○福井大学 ○産業界

◆取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (開業年度)	2024年度
①	第2産業団地への企業誘致	補助事業実施					
②	サテライトオフィスなどIT企業の誘致	補助事業実施					誘致戦略策定
③	サテライトオフィス整備促進			補助事業実施			
④	産業間連携推進等事業費	本格実施					
⑤	嶺南 E コースト計画推進事業費	計画策定	Eコースト計画への反映	共創会議の将来像への反映		民間連携事業支援	

E ホスピタリティあふれる 敦賀人の育成

来訪者に敦賀の魅力を伝えるためには、市民一人ひとりが敦賀の魅力を再認識し、誇りをもって紹介できることが大切です。ボランティアガイドの方をはじめ、民間企業、NPO、大学生などの若者など多様な立場の市民が、スキルと心(＝おもてなし意識)を磨くことで、来訪者の受入体制づくりを推進します。また、新たな「敦賀人」の受け入れに向けて、移住・定住希望者のサポートを行います。

さらに、行政と民間が協働で新幹線開業に向けた取り組みを推進できるよう、官民連携による組織づくりを目指します。

E-1 敦賀市民のおもてなし意識向上

E-2 インバウンドへの対応

E-3 民間と行政の連携体制強化

E-4 移住者の受け入れ・支援

E-5 誰もが楽しめる魅力的なイベントや
まつりの開催

★ おもてなし力の強化

市民ボランティアによる市民一人ひとりのおもてなしの推進や、観光事業者などへのおもてなし力向上に向けたセミナー、観光検定などの実施を通じて、ホスピタリティあふれる敦賀人の育成を行い、来訪者の満足度向上を目指す

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	観光事業者などへのおもてなし力向上に向けたセミナーや研修会の開催	市内事業者のおもてなし力向上のためのセミナーを開催し、「おもてなし力」「サービス力」の向上を図る	◎敦賀商工会議所
②	敦賀おもてなし事業の推進	来訪者に「もう一度訪れたいまち」と思ってもらうために、市民活動団体、商店街、敦賀商工会議所などが連携し、おもてなし隊の人材育成の推進や新たなおもてなし事業を構築する また、新幹線開業に向け、おもてなし体制の充実を図るため、開業関連イベントの会場に「おもてなし受付センター」を開設し、市民から「おもてなし隊」への参加者を募集する	◎NPO 法人 THAP など ◎協同推進組織(おもてなし部会)
③	観光ボランティアガイドの活動の充実	事前にガイドを希望したお客様に対し、敦賀市内を案内するボランティアガイドを行い、敦賀の認知度向上を図る また、歴史や文化など多様な視点から敦賀の魅力を説明できるよう勉強会・研修会を開催し、ガイドスキルを高めるとともに、広報紙などを通じて会員の拡大を図る	◎観光ボランティアガイドつるが
④	敦賀の観光に関する講座の開催	語学講座に「敦賀の観光」をテーマにした回を設け、市民への啓発を図る また、「ふるさとの魅力発見ー日本遺産(鉄道遺産ストーリー)の魅力ー」をテーマとした生涯学習講座、現地学習を開催し、日本遺産に認定された鉄道遺産の魅力について知ってもらうことにより、おもてなし力の向上を図る	◎敦賀市
⑤	観光つるが検定の実施	市民に敦賀市内の観光に関する知識の習得を促し、観光ガイドの育成につなげるため、初級・中級・上級の検定を実施し、敦賀博士の育成を図る	◎敦賀観光協会 ○観光ボランティアガイドつるが など
⑥	北陸新幹線敦賀開業歓迎のおもてなし運動	来訪者をおもてなしの気持ちで歓迎するため、公共施設と連携し、花のプランターを設置する また、ボランティアによる、おもてなし運動を展開する	◎敦賀市民憲章推進会議 ◎「小さな親切」運動敦賀支部
⑦	おもてなし隊の活動の推進	北陸新幹線敦賀開業に向けて、来訪者をきれいな町並みでお迎えできるよう、市民や企業と協働し、定期的な清掃活動に取り組む また、氣比神宮前での写真撮影のお手伝いや地元目線で飲食店や観光スポットをお勧めするなど、観光客とのコミュニケーションを通じて、敦賀に親しみを持ってもらい、リピーターの増加を図る	◎NPO法人THAP

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	観光事業者などへのおもてなし力向上に向けたセミナーや研修会の開催	セミナーの開催(事業者向け)					
			セミナー(ワークショップ)の開催(市民、観光ボランティア向け)				
②	敦賀おもてなし事業の推進	商店街、敦賀商工会議所との話し合い	新たなおもてなし事業の展開				
③	観光ボランティアガイドの活動の充実	事業実施					
④	敦賀の観光に関する講座の開催	講座の開催、観光つるが検定チラシ配布			講座等の企画・開催		
⑤	観光つるが検定の実施						検定の実施
⑥	北陸新幹線敦賀開業歓迎のおもてなし運動			事前準備(協力依頼等)		花のプランターの設置	
⑦	おもてなし隊の活動の推進	事業実施					

★ 外国人観光客へのおもてなしの向上

外国人旅行者の増加が見込まれることから、インバウンド対策セミナーの開催や英会話ハンドブックの作成などにより外国人旅行者に対するおもてなし力の向上を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	インバウンド対策セミナーの開催	外国人旅行者のおもてなしに関するセミナーを実施し、おもてなし力向上を図る	◎敦賀商工会議所
②	指差し会話シートの作成・配布	市内事業者向けに、インバウンド向けの指差し会話シートを作成・配布し、インバウンド受入環境整備を推進する	◎敦賀商工会議所
③	観光案内英会話への対応	インバウンドの受け入れや外国人のおもてなし時に役立つ簡単な英会話ハンドブックを作成する	◎敦賀観光協会 ○観光ボランティアガイド つるが
④	クルーズ客船寄港の積極的誘致	クルーズ客船の誘致活動及び寄港時の歓迎イベントを行い、敦賀港の賑わいを創出する	◎敦賀市
⑤	おもてなし隊の活動時における英語案内の充実	氣比神宮前での活動時に日本語の案内板に加え、英語表記の案内板を作成する 特に海外クルーズ船の寄港時に英語での案内を推進する	◎NPO法人THAP

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	インバウンド対策セミナーの開催	セミナーの開催	翻訳機の運用、貸出し				
②	指差し会話シートの作成・配布	会話シートの配布					
③	観光案内英会話への対応						概要の作成 および校正
④	クルーズ客船寄港の積極的誘致						
⑤	おもてなし隊の活動時における英語案内の充実						案内看板作成 事業実施

★ 官民連携の体制づくり

新幹線開業に向けて各種取組の連携や開業に向けたプロモーションの検討・推進を行うための官民連携体制の構築を行う

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	敦賀市観光推進ネットワークの推進	官民協働による観光振興を担う敦賀市観光推進ネットワークを開催し、情報の共有化を図ることで各団体の相互連携を促し、本市の観光振興への相乗効果を図る	◎敦賀市 ○敦賀観光協会 ○敦賀商工会議所 など
②	観光誘客対策	観光の産業化に向けて関係他団体との連携を推進する	◎敦賀商工会議所
③	官民連携組織の推進	新幹線開業に向けた取組推進の場である官民連携組織において、情報共有や行動計画の見直し、具体的なプロモーションや開業イベントの検討を行う また、開業後も観光振興を担う各団体の相互連携を促し、本市の観光振興への相乗効果を図る	◎敦賀市 ◎敦賀商工会議所 ◎敦賀観光協会 など
④	まちづくりプレイヤー発掘・育成	市民発案の企画やそのプレイヤーを発掘、育成するため、敦賀の魅力を発信する取り組みを創造する場づくり(ワークショップ、発表会)を既存と新規のまちづくりプレイヤーのマッチングを図りながら実施する	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	敦賀市観光推進ネットワークの推進	事業実施					
②	観光誘客対策	関係他団体との連携強化					
		新幹線敦賀開業まちづくり推進会議、同関連諸会議(ワークショップ含む)					
		マーケティングの調査・観光ルート造成					
③	官民連携組織の推進	組織設立に向けた勉強会等の開催	組織の設立、取組内容役割分担の確認	取組方策の検討・見直し等	開業イベントの開催等		
④	まちづくりプレイヤー発掘・育成			ワークショップ			
					企画実施		

★ 移住・定住の促進に向けた情報提供

北陸新幹線敦賀開業により移動時間が短縮するなど、利便性が向上することから、移住・定住を促進するための情報提供を行い、「ウェルカムシティーつるが」として本市への定住促進を図る

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	空き家・空き地情報バンクの促進	市内の空き家・空き地情報の提供や物件所有者と定住希望者などのマッチングを図る敦賀市空き家・空き地情報バンクについて、登録物件に対する支援を行うことで登録件数および成約件数の増加を図る	◎敦賀市 ○宅地建物取引業者 ○福井県
②	移住定住促進HPの作成・運営	敦賀の魅力を発信する専用ホームページを運営することで、移住定住を促進する	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	空き家・空き地情報バンクの促進	事業実施					
②	移住定住促進HPの作成・運営	ホームページの運営					
			ホームページの改修				

移住・定住者への支援

子育て世帯や移住者などに向けて住宅の取得やリフォームの支援を行うことにより、移住・定住を促進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
③	3世代ファミリー定住支援事業	多世帯が同居・近居するための住宅取得(購入・新築)や同居するためのリフォームを支援することにより、子育てや介護など、世帯間で助け合いながら安心して暮らすことのできる環境を創出し、敦賀市への定住を促進する	◎敦賀市 ○福井県
④	新婚・子育て世帯と移住者への住まい支援事業	子育て世帯と移住者に対して、敦賀市空き家・空き地情報バンクに登録された空き家の購入やリフォームを支援することにより、空き家の有効活用を図り、敦賀市への定住促進および子育て世帯の住環境向上を目指す	◎敦賀市 ○福井県
⑤	移住支援金制度の実施	移住定住促進HPによる情報発信にあわせて、移住の後押しとなる支援金制度を実施し、敦賀市への移住を推進する	◎敦賀市
⑥	移住者・新婚世帯家賃補助	良質な住環境を提供するとともに、本市への移住・定住を促進するため、新たに市営特定公共賃貸住宅(特公賃)に入居する移住者世帯または新婚世帯に対し、一定期間家賃の一部を補助を行い、敦賀市への定住を促進する	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
③	3世代ファミリー定住支援事業	支援実施					
④	新婚・子育て世帯と移住者への住まい支援事業	支援実施					
⑤	移住支援金制度の実施	東京圏型					
			全国型				
⑥	移住者・新婚世帯家賃補助			支援実施			

★ まちなかの賑わい創出

商店街組合、市民、市民団体によるイベントなどの開催により、多様な主体が積極的にまちづくりに参画し、中心市街地の賑わい創出を推進する

	事業	内容	実施主体(◎) 連携団体(○)
①	中心市街地における地域活性化イベントなどの開催	敦賀駅周辺での「つるが鉄道フェスティバル」の開催をはじめ、「敦賀港イルミネーション『ミライエ』」などの金ヶ崎周辺地区の活性化イベントや、「晴れの日」、「氣比神宮の杜フェスタ」、「つるが旨いもんなんでもマルシェ」などの商店街の賑わい創出を目的としたイベントなどを開催し、地域活性化を図る 参加店の店主やスタッフが講師となり、そのお店ならではの専門的な知識やコツ・裏技などを教えてくれるワークショップ型のゼミ「まちゼミ」を開催する また、敦賀市公認キャラクター「ツナガ君」や「よっしー」などを用いてイベントの賑わいを創出する	◎「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会 ◎敦賀青年会議所 ◎敦賀商工会議所 ◎敦賀市商店街連合会 ○各商店街振興組合 など
②	中心市街地賑わい街づくり支援事業	市民団体や商店街等が中心市街地において実施する賑わいづくりのための事業を支援する	◎敦賀市 ◎港都つるが ○各商店街振興組合 など
③	友好市町と連携した賑わい創出イベントの開催	敦賀市の歴史遺産をPRするとともに友好市町と連携した賑わい創出イベント開催を推進する	◎敦賀市 ◎民間団体 ○敦賀観光協会 など
④	国際交流イベントの開催	人道の港との縁のあるイスラエル、オランダ、ポーランド、リトアニアの4カ国との交流を目的としたイベント開催を推進する	◎敦賀国際文化交流フェスティバル実行委員会
⑤	中心市街地における子どもイベントの開催	青少年健全育成を目的とした「親子のフェスティバル」を金ヶ崎周辺地区で開催し、他のイベントと連携するなど、地域全体の活性化を図る	◎青少年健全育成敦賀市民会議 ◎NPO法人THAP
⑥	安心して来訪できる感染症対策の実施	大きな健康被害と社会的影響をもたらす感染症から市民、来訪者の生命及び健康を守るため、敦賀市新型インフルエンザ等対策行動計画を必要に応じ更新するなど、安心・安全な環境の維持に努める	◎敦賀市

◆取組スケジュール

	事業	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度 (開業年度)	2024 年度
①	中心市街地における地域活性化イベントなどの開催	「敦賀港イルミネーション『ミライエ』」「つるが鉄道フェスティバル」「晴明の朝市」「氣比神宮の杜フェスタ」「つるが旨いもんバル」などのイベントの開催					
②	中心市街地賑わい街づくり支援事業	支援実施					
③	友好市町と連携した賑わい創出イベントの開催	賑わい創出イベントの開催					
④	国際交流イベントの開催	国際交流イベントの開催					
			人道ウィーク国際交流フェスティバル				
⑤	中心市街地における子どもイベントの開催					事業実施	
⑥	安心して来訪できる感染症対策の実施						

第 5 章

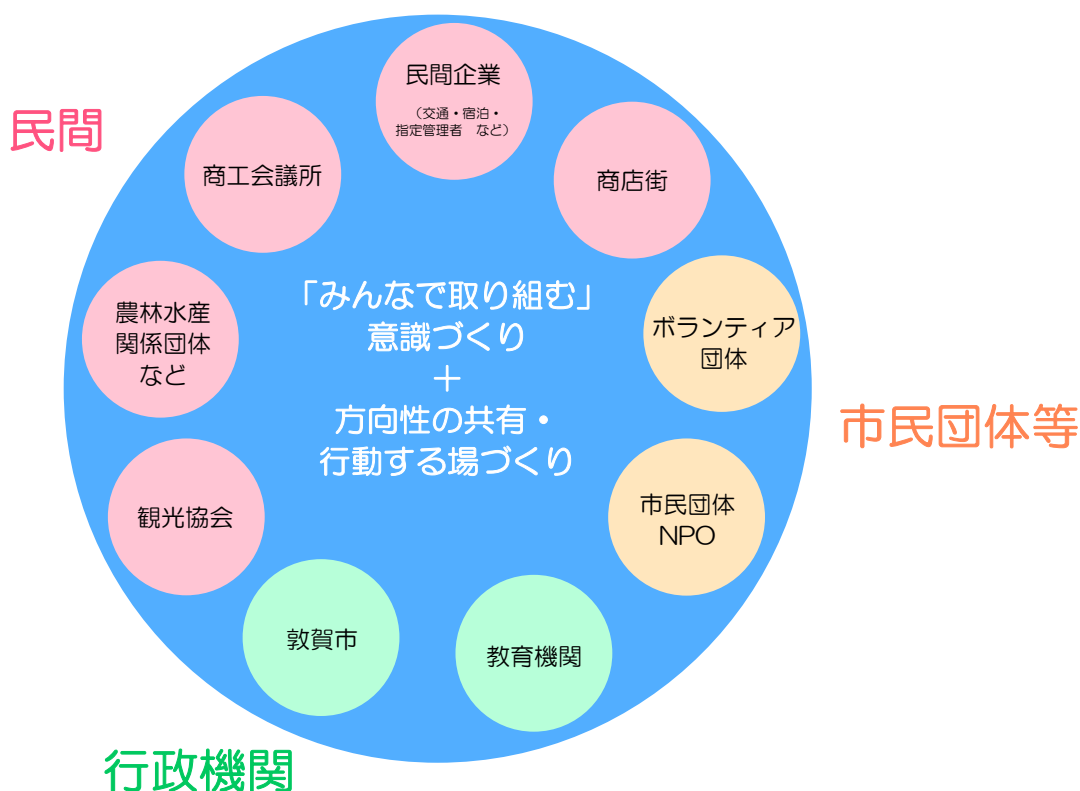
行動計画の推進

5-1 官民連携による推進体制

本計画の推進にあたっては、行政、民間企業、ボランティア団体など様々な主体の連携が重要であり、本計画や推進すべき方向性を共有し、一丸となって行動する場づくりが必要となります。

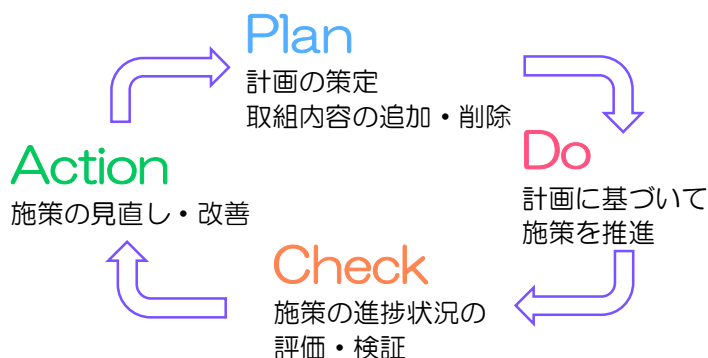
そのために協働推進のための組織を構築し、本計画の見直しをはじめ、開業に向けた具体的なプロモーションや開業イベントの検討など、開業に向けた取組を効果的に推進できるような体制づくりを目指します。

図表 協働推進体制のイメージ



5-2 計画の見直し・改善

本市を取り巻く社会情勢は毎年変化するとともに、今後「敦賀市再興プラン」を始めとする上位計画の改訂も行われます。そのため、できることから着実に一歩ずつ新幹線開業に向けて取り組むとともに、社会情勢の変化などを踏まえながら、毎年度、取組状況の評価・検証を行い、状況に応じて取組内容の追加や見直し、改善を行うことで、より実効性の高い計画にします。



北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画

2019 年 3 月

2021 年 3 月一部追加

2022 年 7 月更新

2023 年 6 月更新

2024 年 6 月更新

敦賀市まちづくり観光部観光誘客課

TEL 0770-22-8128 FAX 0770-22-8184